

CZ
1113
19-04

秋田縣達要約

第一類
乾

東京圖書館			
十四		新書門	
十二		部類函架號冊	

031165-000-6

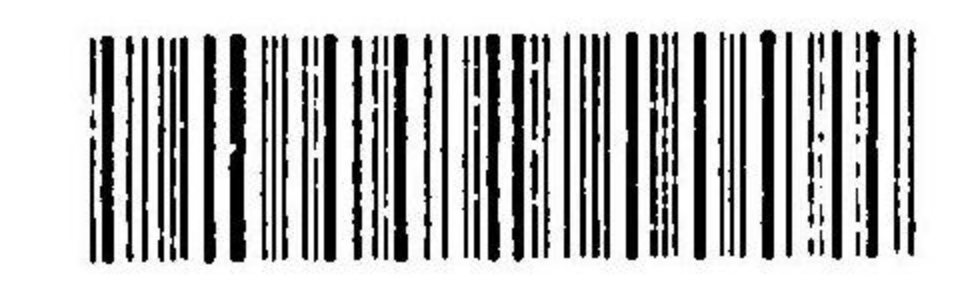
CZ-1113-19-04

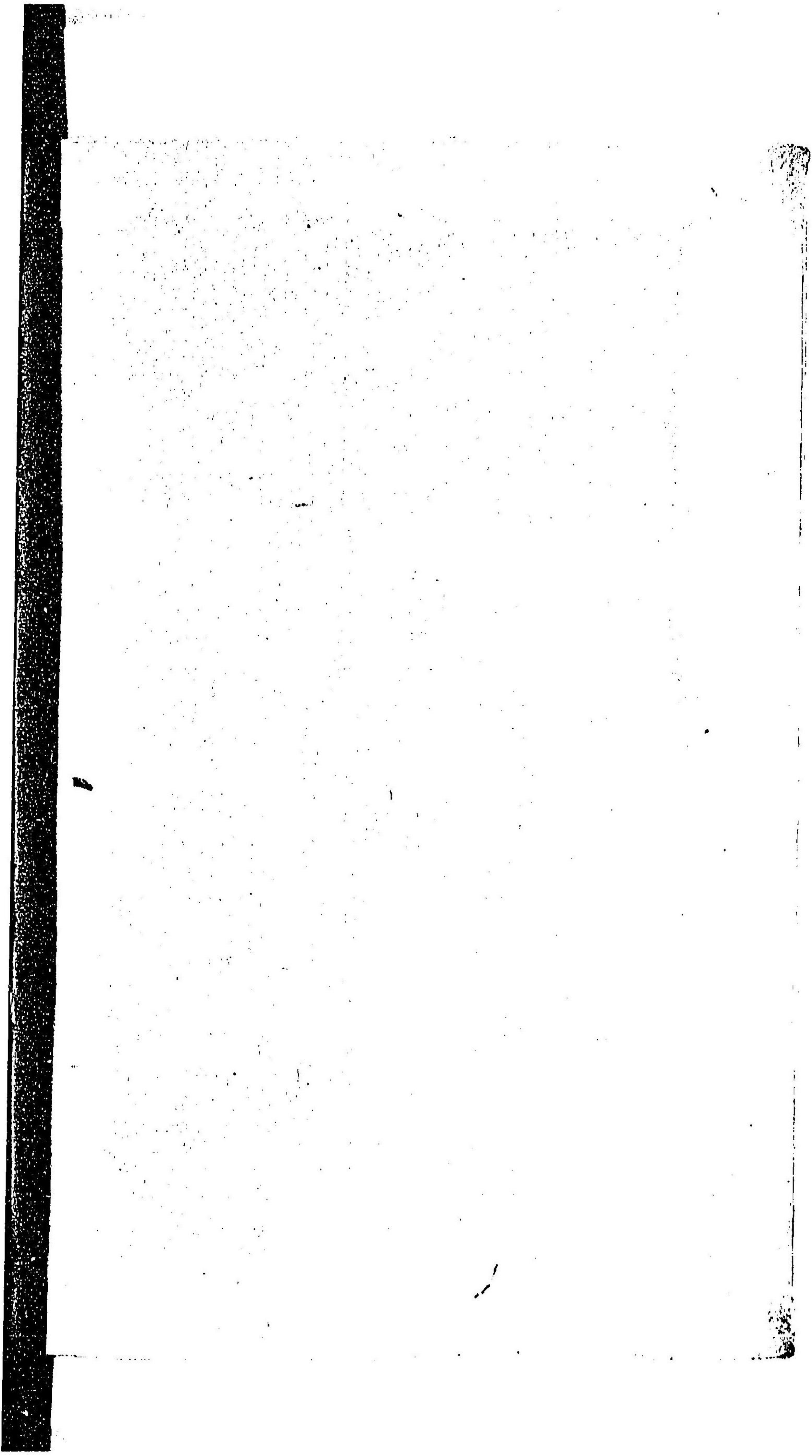
秋田縣達要約 第1類 乾

小野崎 堅治 / 編

M16

BBD-0036





凡例

- 一 此書ハ明治五年以降十五年ニ至ル本縣發スル所ノ諸達類現今施行ニ係ル分各課署ノ區別ニ基キ其類ヲ分チテ編纂ス
- 一 規則ニシテ各部目ニ涉ルカ或ハ部目ニ類從スヘカラサルモノハ別ニ本類ノ内ニ雜部ヲ設ケテ之レニ掲ク
- 一 規則ニシテ其條件甲類又ハ乙丙類ニ涉ルモノハ其主タル所ノ類ニ編シテ關係アル他ノ類ニハ載セス
- 一 此書タル專ラ簡易ヲ主トスルヲ以テ其達ニ改正削除アルモノハ一訂正シテ之ヲ載セ證頭ニ何年何番或ハ何号記シテ以テ沿革ヲ知ラシム
- 一 各類ノ卷首ニ毎件館番號ヲ掲記シ符号ヲ付シテ本書ノ搜索ニ便ナラシム
- 一 本書ハ逐年類集スルヲ以テ諸達等ノ内十五年ニ存在スルモノ本年ニ

至リ消滅又ハ廢止ニ屬セルモノハ略シテ載セス

明治十六年五月

秋田縣建設要約總目錄

第一類

庶務附
兵事整理

○部村吏ノ部

○會議ノ部

○戸籍ノ部

○社寺ノ部

○雜ノ部

○兵事ノ部

第二類

觀業

○農事ノ部

○工商ノ部

○牧畜ノ部

○漁獵ノ部 附銃獵

○雜ノ部

○森林ノ部
○驛遞ノ部

第三類

租稅

○國稅ノ部

○地方稅ノ部

○地理ノ部

○地券ノ部

第四類

教育

○釀造ノ部

○雜ノ部

○ 吏員ノ部

○ 學校ノ部

○ 學資ノ部

○ 雜ノ部

第五類

衛生

○ 醫員ノ部

○ 惡疫ノ部

○ 種痘ノ部

○ 賣藥ノ部

○ 病院ノ部

○ 雜ノ部

第六類

土木

○ 修築ノ部

○ 雜ノ部

第七類

會計

○ 貨幣ノ部

○ 公債ノ部

○ 出納ノ部

○ 雜ノ部

第八類

警察附

監獄

○ 官署ノ部

○ 達警ノ部

○ 集會ノ部

○ 藝唱妓賃坐敷ノ部

○ 銃砲彈藥ノ部

○ 雜ノ部

○ 監獄ノ部

秋田縣達要約

第一類 庶務附 兵事整理

明治十五年ヨリ 十五年ニ至ル

郡村吏之部

番號 件名

乙四十六 番外 六年十月廿三日 戸主代替改印等届出ノ節印鑑帳加除スヘシ

乙四十四 扱所ニテ人民接待方不信仰等無之様注意セシム

乙四十二 戸長ヲシテ浦役人兼務セシム

乙四十一 人民出縣証申出タル者取扱方

乙七十七 諸願伺書中誤脱字等與印ノ際可爲引直

乙七 區戸長書記役等兼務アルモノ月給々與方

乙十六 戸長書記役擔當内水火災ノ節出張警察官へ名刺ヲ

可出

乙二十八 區務所事務所不用品入札ノ際區戸長ノ投標ヲ禁ス

乙百八十六 郡村吏事務受渡規則
 觸三百八十 郡長書記ノ職制及郡長掌管條件并戸長職制概略
 觸三百八十二 郡長書記ノ月俸表
 番丙十二月四年 郡長処分條件
 外丙一月四日
 番丙同年 賦金徴收方ハ郡役所へ擔任セシム
 外丙同月七日 諸官省局へ郡長ヨリ直チニ通牒スヘカラス
 丙十二 戸長職務上ノ願伺ハ郡長へ指出サシム
 乙十 同上ノ義ニ付郡長指令難及分ハ本廳へ申牒スヘシ
 丙十五 事務上ニ付往復書ハ郡長ヨリ課長宛チ以テスヘシ
 丙二十五 郡長掌管事件ニ付鎖台其他へ直チニ通牒不苦
 丙二十八 郡長ヨリ他府縣へ直接往復スルヲ禁ス
 丙七十二 縣用ノ爲郡吏へ特ニ出張巡廻申付ノ節心得方
 丙九十三 官撰戸長給料ハ協議費ヲ以テスヘシ
 乙五十三

乙五十四 戸長職務上ノ願伺届等郡長及本廳へ差出方
 甲百九 戸長以下年俸給與規則
 丙百三十一 掌管事務ニ付他府縣郡區長ト往復スルハ差支ナシ
 甲百十二 戸長以下旅費章程ヲ更定ス
 乙六十四 役場ノ印章ハ舊印ニ似ヒ彫刻スヘシ
 丙百五十五 郡内一般へ達スル件ヲ除ク外報告ニ及ハス
 丙百八十六 処刑濟通報外三件廣島縣ヨリ照會
 丙二百十 他縣ノ者變死傷ノ節直チニ其郡役所ニ照會スヘシ
 丙二百五十四 郡吏出張巡廻旅費支給方
 丙二百九十 郡吏滿年賜金等繰替方ヲ定ム
 乙二十一 各町村公有記録繪圖面等保存方
 丙二百四十七 身代限取調書へ奥印ヲ附シ裁判所へ回送スヘシ
 丙百九十七 郡長以下旅費并雇月俸ヲ改定ス

丙三百五十五 裁判所へ往復ハ一般掛合回答ノ文体ヲ用フヘシ
 乙六十九 制限ニ超過スル利子付証書へ戸長與印スルモ不苦
 丙三百八十八 郡役所用掛申付方ノ件
 丙四百七十九 舊區戸長ヨリ郡吏へ轉任ノ者月俸支給方
 丙五百三十四 郡役所用掛旅費日當ハ雇額ヲ以テ支給ス
 丙十七 郡長出應ノ節經伺ノ上發途スヘシ
 乙九 犯罪ニ依酒類器械等公賣調裁判所へモ差出スヘシ
 丙二百廿六 戸長筆者旅費支給方ヲ定ム
 乙三十八 裁判所ヨリ戸長呼出旅費其他支弁方ヲ定ム
 乙五十七 願伺等壅蔽ノ弊害ナキ様注意スヘシ
 丙三百八十一 郡役所諸經費増減説明書雛形
 丙六百一 三大節郡吏賀表差出方ヲ定ム
 外 十五年 郡長以下旅費日當費解譯ヲ改正ス
 二月廿八日

番 十五年 郡長戸長司法警察事務取扱心得
 四月廿日
 乙四十六 寄留人願伺届取扱ノ際其旨本籍へ通報スヘシ
 乙四十九 土木費ノ怠納ヲ郡長ノ處分ニ屬ス
 丙二百二十 郡役所學務掛所務規程ヲ調製セシム
 乙六十七 數町村戸長連署ヲ要スル願伺届ニ筆者代理ヲ禁ス
 乙七十六 役場ニテ上申往復等ノ公文新聞紙へ掲出ヲ禁ス
 甲百二十八 郡長特別委任條件
 甲百六十二 戸長公撰法
 乙百十四 戸長學務并衛生委員等職務上ノ申牒ハ所管郡役所ヲ
 經ヘシ
 甲百六十三 戸長公撰法ニ付在來ノ戸長ハ別ニ改撰ニ及ハス
 丙五百六十七 諸申牒取扱手續心得方

會議之部

番号 件名

甲百二十五 縣會議員撰舉員數

丙四百四十八 縣會議員當撰者屆書式

丙四百九十八 縣會議員選舉ノ節五名以下副撰スヘシ

乙九十三 町村會規則及施行ノ節心得方

乙百九 組合町村會ノ儀ハ每町村殊別ニ開會スヘシ

乙百十 縣會議員撰舉被撰舉人異同ヲ加除スヘシ

甲五十五 常置委員々數及月手當ヲ定ム

甲七十七 縣會議員旅費及書記給料旅費支給方ヲ定ム

乙四十一 縣會議員撰舉被撰舉人員及協議費取調雛形

乙十五 學事ニ關スル議案町村會ニ付シ其評決取扱方

乙二十六 町村會規則伺項目中追加

丙二百九十五 縣會議員當撰者人民開申方

乙八十一 學事ニ關スル町村會ノ議按及實施取扱方

甲百四十六 本縣議員就職交換手續ヲ定ム

郡區編製之部

番号 件名

觸二百六十二 町村廢合及改稱等不得止分ノ外ハ禁之

甲三十九 町村事務所ノ名稱ヲ役場ト改ム

戶籍之部

番号 件名

布四百八十七 士族卒死後相續人無クハ婦女子ヲ以願出ヘシ

布七百七十四 四民戶主實印鑑差出方并雛形

第一類案件銘

觸八十

別居ノ名稱ヲ廢シテ爾今寄留ト唱ヘシム

觸百四十七

本家分家親戚及男女兩戸主結婚ノ外合家ヲ禁ス

乙二十九

戸主印鑑帳ハ新舊ヲ區別シ製置スヘシ

觸六百四十五

平民幼少ナルキハ後見人ヲ定メ届出ヘシ

觸六百七十

送入籍雙方ノ戸籍ニ登記セサル内ハ無効トス

乙百九

實子アル者養子子女アル寡婦夫ヲ向ヒテ相續人トナス出願方

乙二百二十四

送入籍手續

乙六十二

月繼戸籍ノ加除ニ關スル届番差出ニ不及

乙百五十四

男女ノ戸主共家名ヲ廢シ他へ入夫縁付等ハ情願ニ依リ詮議ニ及フヘシ

觸三百三

戸籍番号ハ一町村毎屋敷番押スヘシ

乙二百十一

失踪届事務所限リ取扱

乙百五十二

士族尋常ノ遺跡隱居養子分家ノ節ハ自今事務所へ届出ヘシ

甲三十七

函館漁業出稼ノ者証印ヲ受クヘシ

乙二十三

士族貫籍替ハ事務所限リ届出サシム

甲五十九

非役帶動并有位ノ輩式部寮へ届出條款ヲ定ム

甲七十四

戸主退身復籍願出方

乙十

戸籍表雛形更正

甲九十

毎戸標札ノ雛形

甲百五十七

北海道送籍移住ノ者渡航心得方

甲三十六

函館地方雇入受宿規則

乙四十八

北海道へ送籍移轉願東京物産取扱所へ出スヘシ

甲百七

非役有位帶動ノ輩轉居死亡等ノ節届出方ヲ定ム

乙七十二

戸籍送受證徴兵ニ關スル事項ハ詳記スヘシ

甲百三十二 戶籍上ニ關スル諸願書差出方
 乙九十七 北海道へ移住志願者取扱方
 外丙十五年 旅行死亡人埋葬表雛形
 十二月九日

社寺之部

番号	件名
觸三百二十	縣社以下祠宮祠掌歸依願ノ手續ヲ定ム
觸四百七十四	祠宮掌擔當所外ノ神事へ關係スルヲ禁ス
觸五百八十	社寺境内伐木出願方
乙四十三	招魂社祭日更定
乙七十六	神社遙拜所建設願ハ本社承託書ヲ添フルニ及ハス
乙八十八	社寺什物等ノ帳簿ヲ製シ各職任免ノ節受渡スヘシ
觸九	人民私邸内神祠佛堂へ衆庶參拜ヲ停止ス

觸二十	寺院ノ借財ハ檀家二名以上連署スヘシ
乙百九	神官給料及祭典費賦課方法取消民子ノ協議ニ任ス
觸百二十一	神宮大麻頒布自今地方官ノ關係ニ及ハス
乙七十三	神社寺院明細帳等取調雛形
甲百四十九	寺院住職ノ辭令書ヲ廢シテ願書へ許否ヲ指令ス
甲百九十五	府縣社以下祠宮祠掌ノ等級ヲ廢ス
甲百三	祠宮祠掌ノ辭令書ヲ廢シテ願書へ許否指令ス
丙五百十七	眞宗教會結社出願ノ際該派管長添書ヲ要ス
甲百八十三	古墳ト見認ムルケ所ヲ届出ヘシ
乙十四	古來諸王ニテ奏祀ノ子孫ナキ墳墓届出方
甲百七十五	各社寺氏子檀家中総代人ヲ定メ置クヘシ
甲二十六	神官ハ葬儀ニ關係セサルモノトス
甲九十二	氏子甲乙社ノ合併届出方

甲百三十七

皇典講究假分所設置

丙四百六十一

社寺境内伐木取扱概則

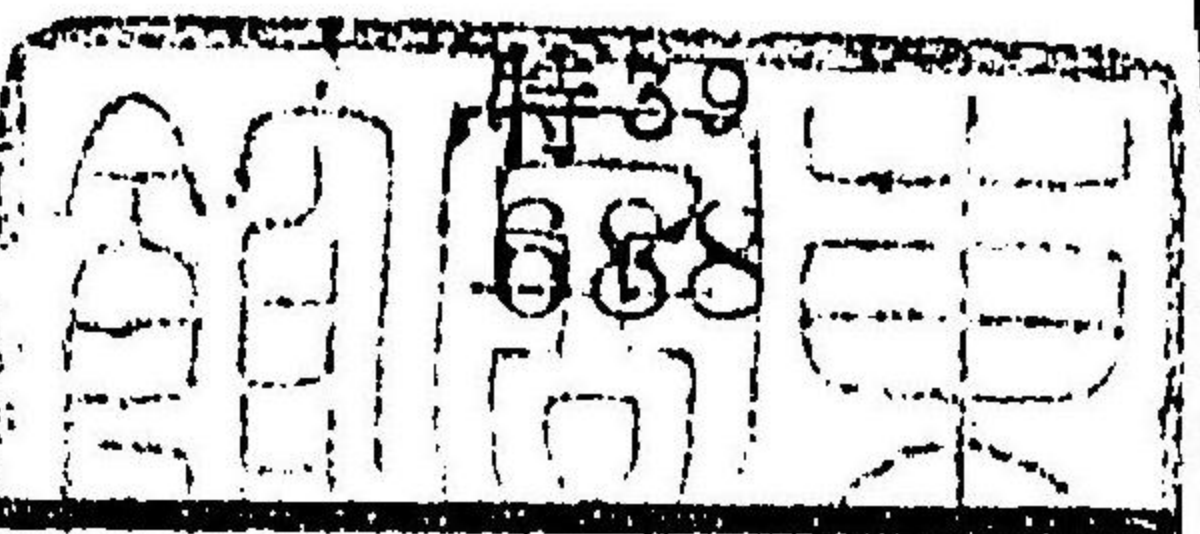
甲百五十三

社寺院ノ守札他ニテ出板スルヲ禁ス

乙百三

社寺創立再興等許可ノ分ハ二年以内ニ建設スヘシ

CZ
1113
19-04



秋田縣達要約

第一類 郡村吏之部

明治十五年ヨリ
十五年ニ至ル

○番外明治六年
十月廿三日

區戶長

四民ニ統戶主ヨリ實印鑑爲差出候ニ付テハ各小區振所ニ於テ大抱堅
帳仕立屋敷番号順序ニ張附置改印代替リ等届出候節ハ張掛ケ送入籍
之者有之節ハ加除可致候此段相達候事

○乙第四十番 明治七年
九月二十三日

各區正副區戶長

各區振處ノ儀ハ區内之便宜ヲ計リ事務取繼メ之爲相設ケ置候處兎角
体裁虚飾ニ流レ人民接待方頗ル不信切且ハ威權ヲ以壓抑候向モ有之
哉ニ相聞右等弊習相生候テハ地方ノ困難ハ勿論便宜モ却テ不便ニ陷
リ結句御政体ニモ差響實以不相濟儀ニ付向後右体之措置無之様一層

郡村吏之部

注意可致此段相違候事

○乙第六十二番 明治八年六月七日

各區正副區長

本年太政官第六十六號公布當縣第二百七十六番觸示内國難破船及漂流物取扱規則當六月一日ヨリ御施行ノ等ニ付テハ浦方ニ接近ノ戸副長於テ浦役人兼務可申付候條早々人撰ノ上人名可申出此旨相違候事

○乙第四十番 明治九年三月十日

各區正副區長

人民他府縣下寄留旅行等之節ハ一般無印鑑ニテ旅行不差支様可致旨明治五年第百八十号公布之次第有之ニ付テハ出縣九十日内外ヲ以其筋ニ相届候上ハ一般差問無之筈ニ候得共左候テハ商業上又ハ出稼等其地ニテ自ラ郡村居住番地等証スルニ足ルモノ無之ヨリ便宜ノタメ出縣証申出候モノモ有之其都度各扱所ニテイテ適宜之取計ヲ以相渡

來候趣然ルニ其取斗振區々ニテ間ニハ不都合之文意等モ有之哉ニ相聞右ハ元來御趣意ニ悖リ不都合不少候得共實際不便之儀モ可有之ニ付自今各自望ニ任セ届書寫末文ニ左之通記載相渡本人處持致候様可取計此旨相違候事

前書之通相違無之候事

某縣大小區

年号干支月日

扱所印

○乙第七十七番 明治九年五月十三日

各區正副區長

各人民ヨリ指出候諸願伺届書中間々誤字脱字等ノ不都合有之ヨリ輕キ願事ニモ數日ヲ費シ或ハ遠隔ノ地ヨリ出縣ノ者等空シク立戻リ候儀モ有之哉ニ相聞右ハ書式一定ノ品ハ素ヨリ無論ノコトニシテ假令一定無之分タリモ事明瞭セサルカ或ハ誤字脱字等於有之ハ奥印ノ際

庶務ノ部
十年觸示
第五十番
參照

郡村吏之部

屹度可爲引直等ニ有之候條自今右等ノ不都合無之様一層注意可致此旨相達候事

○乙第七番 明治十一年一月廿二日

區長 戶長

區戶長及ヒ書記役等ニ於テ他ノ職務ヲ兼ヌルモノハ本務兼ノ月給高ヲ比較シ一ノ多キ方ニ就テ給與候條此旨相達候事
但手當料ノ名義ヲ以テ支給候向ハ此限ニアラス

○乙第十六番 明治十一年一月廿五日

區戶長

各事務所擔當内ニ失火水災等有之節ハ出張警察官ヨリ夫々及協議候筋モ可有之ニ付現場出張ノ戶長又ハ書記役等ハ出張警察官へ名刺可差出此旨相達候事

十二年乙
第五十八
号参照

○乙第廿八番 明治十一年二月十二日

區戶長

舊扱所及ヒ區務所事務所不用ノ物品等公ケノ入札法ヲ以テ拂下候節區戶長ヲ始メ總テ村吏ノ部分ニ屬スル者ニ限リ本人ハ勿論其代理人ト雖モ投票不相成候條此旨相達候事

○乙第百八十六番 明治十一年十二月十四日

區戶長

從來郡村吏轉免等ノ際事務請渡ノ規則無之ヨリ往々諸事錯雜シ理事上ノ障碍ヲ爲スモノ不少候ニ付今般別紙ノ通規則相設候條自今渾テ右ニ照準請渡可致此旨相達候事

郡村吏事務受渡規則

第一章

郡村吏轉任免職等ノ節ハ奉職中ノ事務并ニ取懸リノ事件後來ノ見込ヲ詳記セル演說書ヲ作り先前ヨリ繼送ノ書類等新舊吏員互ニ受渡ノ

郡村吏之部

証書ヲ交付スヘシ

第二章

國縣稅ヲ始メ官納スヘキ金錢ハ皆納未納ノ譯ヲ詳記シ其現貨ハ其筋
ニ差出有之カ又ハ不差出等明了ニ仕譯書ヲ製シ演說書ニ記載スヘシ

第三章

民費其他平素管掌スル金錢皆濟又ハ未濟ノ譯ヲ記シ其金ノ種目年度
等ヲ詳細ニ記載スヘシ

第四章

戶籍帳其他取扱ノ諸帳簿圖書類等悉皆目錄書ヲ副フヘシ

第五章

一切ノ器械ハ物品調書ヲ副ヘ受渡ヘシ

第六章

受渡濟ノ上ハ双方ヨリ區務所ハ縣廳ニ屆出ヘシ若シ引渡ス可キ事
事務所ハ區務所ニ

件ニ就キ遺漏之アリ他日尋問スルキノ入費ハ其本人自ラ辨償スヘシ
諸種目金錢引渡目錄

一金何程

何金收入高

一金何程

何金ノ内收入高

殘金何程

未納分

以下同例

右ノ通引渡候也

年月日

姓名印

某姓名殿

諸帳簿引渡目錄

一何帳簿

何冊

一何帳簿

何冊

以下同例

郡村吏之部

右之通引渡候也

年月姓名記載方前同例

建物及物品引渡目錄

一何

何箇

一何

何箇

以下同例

右之通引渡中候也

同上

○觸第三百八十番 明治十一年十二月廿三日

今般郡制施行ニ付テハ郡長書記ノ職制及郡長掌管ノ條件并ニ戸長職務ノ概目別紙ノ通被相定候條此旨觸示候事
郡長 八等 一人
相當 一人

第一 郡長ノ俸給ハ地方税ヨリ支出ス一月八十圓以下各地方ノ便

宜ニ從ヒ府知事縣令之ヲ定ム

第二 郡長ハ該府縣本籍ノ人ヲ以テ之ニ任ス

第三 郡長ハ事ヲ府知事縣令ニ受ケ法律命令ヲ郡内ニ施行シ一郡ノ事務ヲ總理ス

第四 郡長ハ法律命令又ハ規則ニ依テ委任サル、條件及府知事縣令ヨリ特ニ分任ヲ受クル條件ニ付キ便宜處分シテ後ニ府知事縣令ニ報告ス

第五 郡長ノ處分不當ナリトスルキハ府知事縣令ヨリ取消ヲ命ゼラル、トアルヘシ

第六 郡長ハ町村戸長ヲ監督ス

郡書記 十等ヨリ十七等ニ至ル 定員ナシ

郡書記ノ俸給ハ地方税ヨリ支出ス其額ハ府知事縣令ノ適宜ニ定ム

郡村吏之部

ル所ニ從フ其選任進退ハ郡長ノ具狀ニ依リ府知事縣令ノ命スル所
タリ

市街ノ地ニ置ク所ノ區長并書記ハ總テ郡長郡書記ニ同シ

戸長職務ノ概目

第一 布告布達ヲ町村内ニ示ス事

第二 地租及諸稅ヲ取纏メ上納スル事

第三 戶籍ノ事

第四 徵兵下調ノ事

第五 地所建物船舶質入書入並ニ賣買ニ與書加印ノ事

第六 地券臺帳ノ事

第七 迷子拾兒及ヒ行旅病人變死人其他事變アルトキハ警察署ニ

報知ノ事

第八 天災又ハ非常ノ難ニ遭ヒ目下窮迫ノ者ヲ具狀スル事

第九 孝子節婦其他篤行ノ者ヲ具狀スル事

第十 町村ノ幼童就學勸誘ノ事

第十一 町村内ノ人民ノ印影簿ヲ整置スル事

第十二 諸帳簿保存管守ノ事

第十三 官費府縣費ニ係ル河港道路堤防橋梁其他修繕保存スヘキ物

ニ就キ利害ヲ具狀スル事

右ノ外府知事縣令又ハ郡區長ヨリ命令スル所ノ事務ハ規則又ハ命令

ニ依テ從事スヘキ事

其他町村限り道路橋梁用惡水ノ修繕掃除等凡ソ協議費ヲ以テ支辨ス

ル事件ヲ幹理スルハ此ニ掲グル所ノ限ニ在ラス

地方ノ事務郡區長ニ於テ處分シテ後知事令ニ報告スルヲ得ルモ

ノ左ノ件々トス

第一 徵稅并地方稅徵收及不納者處分ノ事

郡村吏之部

- 第二 徵兵取調ノ事
 - 第三 身代限財産取扱ノ事
 - 第四 逃亡死亡絶家ノ財産處分ノ事
 - 第五 官有地ノ倒木枯木ヲ賣却スル事
 - 第六 電線道路田畑水利ニ障礙アル官有樹木ヲ伐採スル事
 - 第七 河岸地借地檢査ノ事
 - 第八 職遊獵願威銃願ノ事
 - 第九 印紙罫紙賣捌願ノ事
 - 第十 小學校學資金ノ事
- 右ノ外府知事縣令ヨリ特ニ委任スル條件

○觸第三百八十二番 明治十一年十二月廿三日
 今般郡制施行ニ付郡長郡書記ノ職制被相定候ニ付テハ其月俸別表ノ

通リ相定候條此旨觸示候事
 月俸表

第十三年甲七十六號改正

郡書記	郡長	
	八等相當	上
八拾圓	七拾圓	六拾圓
十等相當	十二等相當	十二等相當
二十五圓	二十圓	十七圓
		十四圓
		十二圓
		十圓
		九圓
		八圓

○番丙 明治十二年 外丙 一月四日 郡役所

別紙之條件郡長限リ処分可致此旨相達候

- 一所管ノ郡内巡回派出及本縣出廳之事
- 一郡吏ノ巡回派出ヲ命シ及戸長本廳出頭等ヲ認可スル事
- 一郡吏ノ事務ヲ分掌スル事
- 一郡吏及戸長ノ病氣其他ノ諸届ヲ受理シ歸省入湯等ノ願ヲ許可スル

第十三年丙二百五號削除アリ

郡村吏之部

事

- 一 郡吏及戸長ノ除服出仕ヲ処分スル事
 - 一 教員歸省願等ヲ評ス事
 - 一 額内費ヲ以吏員ヲ増減スル事
 - 一 雇員ヲ進退スル事
 - 一 定額費ヲ支出シ及ヒ不用物品ヲ賣却スル事
 - 一 郡廳舎修繕之事
- 但定額外ハ此限ニアラス

○ 外丙 明治十二年一月七日

郡役所

賦金徴收方ハ地方税同様各郡役所ニ於テ擔任可致此旨相達候事

○ 丙第十二号 明治十二年一月三十一日

郡役所

各郡長掌管條件及特任ニ係ル條件ト雖モ諸官省諸局課へ直チニ通牒不相成候條此旨相達候事

○ 乙第十号 明治十二年二月五日

町村事務所

戸長職務上ニ付テノ願伺届等從來本廳ニ差出來候処爾後ハ總テ郡長ニ可指出此旨相達候事

○ 丙第十五号 明治十二年二月十一日

郡役所

本年乙第十号ヲ以テ戸長職務上ニ付テノ願伺届等之義ニ付相達候所若シ郡長ニテ聞届指令等難相成事件ハ郡長ニ於テ申牒ヲ作リ本廳へ可指出此旨相達候事

○ 丙第二十五号 明治十二年二月十三日

郡役所

十二年丙
第十五号
及乙第十五号
第十四号參照

事務上ノ義ニ付各課所科へ及照會候事件モ有之候ハ、自今郡長ヨリ各課所科長へ及往復候様可致此旨相達候事

○丙第二十八号 明治十二年二月廿一日

郡長

掌管之事務及ヒ特ニ委任之條件ニ付テハ自今左之ク所へ府縣同様直ナニ及通牒候義モ可有之旨照會致置候條爲心得此旨相達候也

(但書不用ニ付刪除ス)

仙臺鎮台

青森營所

開拓使本支廳

宮城上等裁判所

弘前裁判所本支廳及區裁判所

仙台裁判所同上

阿仁院内鑛山分局
地理局秋田出張所

十二年丙
第百三十一号
参照

○丙第七十二号 明治十二年四月廿二日

郡長

掌管ノ事務及ヒ特ニ委任ノ條件ニ付テハ府縣其他へ直チニ通牒可致旨兼テ相達置候所自今諸裁判所ヲ除クノ外總テ本廳ヨリ往復候條処分之條件ニテ他府縣其他へ可及通牒分ハ其時々本廳へ報告可致候此段相達候也

○丙第九十三号 明治十二年五月廿一日

郡役所

自今縣用ノ爲メ郡吏へ特ニ出張巡回等申付候節ハ其旨本人ヨリ該郡役所へ届出候義ト可相心得此旨豫テ相達候事

郡村吏之部

乙第五十二号
五年甲第十
百六十二
減号ニテ消

○乙第五十三号 明治十二年 五月三十日

郡役所町村役場

本年乙第五十二号但書ニヨリ官撰戸長申付候節其給料本年甲第九十額ヲ寡額ニシテ奉職ニ差支候向ハ双方示談ノ上右定額外相當ノ金額該町村ニ於テ協議費支給スルモノト心得サセ不都合無之様可取斗此旨相達候事

○乙第五十四号 明治十二年 六月三日

郡役所町村役場

戸長職務上ニ付テノ願伺届等郡長ニ可差出旨本年乙第拾号ヲ以相達置候處右ハ戸長職務中郡長ニ於テ處分ノ權ヲ有スルモノニ限り候條其他ハ從來之通り本廳ニ差出候儀ト可心得此旨更ニ相達候事
但本文ノ通りタリト雖職務上一時不了解ニ涉ル如キハ郡長ニ於テ其旨趣説明スルハ不苦候事

○甲第九十九号 明治十二年 六月十三日

戸長以下年俸給與規則別冊之通相定候條此旨布達候事

但明治十年第二百七拾番觸示月俸給與規則ハ相廢止候事

戸長並筆者年俸給與規則

第一條 凡ソ年俸ハ十二ヶ月割ヲ以毎月十七日支給スルモノトス
但免職病死等ハ其時々支給スヘシ

第二條 其月割ハ一月ヲ前後ニ分チ新任十五日前ニ在ル者ハ其全額ヲ給シ十六日後ハ半額ヲ給ス免職十五日前ニ在ル者ハ半額ヲ給シ十六日後ハ其全額ヲ給スヘシ

但本條十五日前後ハ受書差出タル日ヲ以區分スヘシ

第三條 上下半月内ニ免職ノ者其月再任スレハ都テ轉任ト見做シ第

四條ニ準シ其俸ヲ給スヘシ

第四條 一月内再三轉任スル者年俸支給ノ定日在職ノ役場ニ於テ其

郡村吏之部

多キ方ニヨリ十五日前後ノ區分ヲ以通算シ其職相當ノ俸ヲ給ス若シ十八日后轉任其俸ヲ増スモノハ轉任ノ役場ニ於テ其増額ヲ給ス可シ

第五條 轉任ノ者前職事務引渡ノ爲メ時日ヲ移シ未タ其職ニ就カサルモ俸給ハ轉任ノ地ニ於テ給スヘシ

第六條 免職ノ者事務引渡ノ爲メ時日ヲ要スルモ別ニ俸ヲ給セス第七條 許可ヲ得テ歸郷スル者ハ歸郷中俸給半額ヲ給ス

但計算法譬ヘハ十五日前奉職地ヲ發足スル者ハ下半月分ヨリ十六日后發足スルモノハ翌月ヨリ減給スヘシ歸郷中時宜ニヨリ公務ヲ命スルトキハ奉務中全額ヲ給スヘシ

第八條 病氣引ノ者二ケ月間ハ俸給全額ヲ給シ其后ハ三分ノ一ヲ給スヘシ尤病氣引十五日ニ至ラハ必ス醫案ヲ副ヒ届ケ出猶二十日毎ニ同様届出ヘシ

但右支給計算法譬ヘハ十五日前引籠リノ者ハ下半月ヨリ之ヲ算シ十六日後引籠リノ者ハ翌月ヨリ算スヘシ

第九條 病狀ニヨリ奉務ノ地ヲ離レ郷里又ハ他方ニ於テ治療セント欲スルモノハ許可ノ上俸ヲ給スルコト第八條ノ通りタル可シ

第十條 奉務ノ地ニ於テ父母病氣看護ノ爲メ其暇ヲ與フルモノハ第八條ニ準ス

第十一條 公事失錯等ニテ糺問中ハ俸給全額ヲ給ス私事ニ涉ル糺問ト雖日數十五日迄ハ尙全額ヲ給シ預ケ中或ハ事故アリテ出仕差止ル者及ヒ私事糺問十六日以上ニ及フ者等ハ其月十五日前后ヲ區分シ減シテ五分ノ一ヲ給ス實決閏刑ニ處セラル、者ハ一切給セサル可シ

但出仕差止ル者及ヒ私事糺問十六日以上ニ及フト雖無罪ニ歸スルトキハ全額ヲ給スヘシ

第十二條 私事訴訟ノ原告人又ハ証人引合トナリ之カ爲メ出勤セサル日數十六日ニ及フ者ハ第十一條ニ準シ減シテ五分ノ一ヲ給スヘシ

第十三條 廢職又ハ改革等ノ節私事旅行ヲ除ク之外遠隔ノ地ニ出張又ハ在勤ノ者ハ達書到達マテハ在職ト同視シソノ俸ヲ給ス若シ到達ノ即日又ハ上下半月内ニ再任スルモノハ轉任ノ例ニ倣ヒ第四條ニ準ス

但私事旅行ノ者ハ在勤ノ地ニ達書到達スル日ヲ以區分ス

第十四條 免職ノ者舊事務引渡済ノ后在職中ノ事件ニ付更ニ出頭ヲ命スルトキハ舊俸半額日割ヲ以テ支給スヘシ

但在職中自己不正ノ事件ニ付出頭セシムルトキハ給セサル可シ

第十五條 廢職又ハ改革等ノ節舊事務取扱中ハ舊俸日割ヲ以支給ス若シ其職制給額ヲ改正スルコトアレハ新舊比較シテ其寡額ヲ給シ第

十四條モ亦此例ニヨル

第十六條 忌引中ハ給俸全額ヲ給シ且ツ父母忌中墓參ノ爲メ歸郷ヲ請フ者ハ其忌日限中ハ同シク之ヲ給シ其余ノ日數ハ十五日前后ノ區分ヲ以第七條ノ通りタル可シ

但歸郷中父母ノ喪ニ遭フ者モ亦本條ニヨル

○丙第百三十一号 明治十二年六月廿三日

郡長

掌管之事務及ヒ特ニ委任ノ條件ニ付テ他府縣ニ係ル者ハ本廳ヨリ往復可及ニ付其時々報告可致旨本年丙第七十二号ヲ以テ相達置候処右ハ其長官ニ宛往復スルナ云モノニテ他府縣ノ郡區長ト互ニ往復スルハ索ヨリ差支無之候條爲心得此旨更ニ相達候事

○甲第百十二号 明治十二年六月廿五日

明治十年第二百七拾番并同十一年第百三拾五番觸示戸長以下旅費章程本月三十日限り相廢止更ニ別冊ノ通相定同七月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

戸長筆者旅費章程

第一章

一族中一切ノ費用トシテ表面之通り旅費日當ヲ支給ス可シ

第二章

一出張巡回ノ別ナク往返里程ヲ通算シ一里ニ付表面ノ旅費ヲ支給ス
壹里未滿ハ給セサル可シ

但赴任免職ハ本條ニ據リ片道旅費ヲ支給ス

第三章

一出張巡回中ハ旅行滞在ノ別ナク一泊ニ付表面ノ滞泊日當ヲ支給ス可シ

第四章

一免職ノモノ自己ノ都合ニヨリ十五日ヲ經テ尙歸郷セサルモノハ歸郷旅費ヲ給セス

但免職后歸郷セサル内再任スル者ハ旅費ヲ給セス既ニ之ヲ受取ルキハソノ旅費悉皆返納ス可シ

第五章

一轉免ノモノ舊事務引渡ノ爲メ滞留スルモ日當ヲ給セス

但一旦甲地ヨリ乙地ニ採用スルモノ舊事務引渡ノ爲メ更ニ甲地ニ出張ヲ命スルキハ當職相當ノ旅費日當ヲ甲地ニ於テ支給ス可シ

第六章

一旅行中川支又ハ病氣等ニテ滞留スルモノ川支ハ渡留病氣ハ醫師ノ診斷書アルトキハ滞泊日當ヲ給ス可シ

第七章

一 免職后舊職中ノ事件ニ付更ニ出頭ヲ命スルモノハ舊官相當ノ旅費ヲ給シ尤當時在官ノ者ハ其官相當ヲ以給ス

但本文旅費ハ元在職ノ役場ニ於テ給スルモノトス

第八章

一 奉職中ノ公務ニ付キ糾問鞠問等ノ呼出ヲ受ケル節モ亦第七章ニ準ス

但處決ノ上私罪ニ該ルハ一切給セス

第九章

一 犯罪又ハ嫌疑等ニテ鞠問中職ヲ免スルモノ處決ノ上罪破廉耻ニ該ル歟又ハ私罪懲役一年以上ノ刑ヲ受ル者ハ歸郷給費ヲ給セス

第十章

一 凡ソ旅行スルモノハ手帳ヲ作り宿泊町村ト里程等ヲ記載シ官廳ハ

其主任郡役所ハ郡吏各町村ハ其役場戸長ノ檢印ヲ受ケ旅行ノ証トナス可シ

但戸長部内ノ旅行ハ筆者之ニ檢印スヘシ尤筆者ヲ置サル役場ハ此限ニアラス

第十一章

一 私事ニ涉ル旅行ハ旅費一切給セサル可シ

第十二章

一 旅費ハ表面ノ通り定ムルト雖役場諸費節減ノ爲メ其額内適宜減少支給スルヲ得可シ

第十三章

一 歸省或ハ養病ニテ他行中免職又ハ死去ノ者モ第二章ニ準シ奉職ノ地ヨリ郷里マテ歸郷旅費ノ額ヲ手當トシテ給ス奉職地ニ於テ死去ノ者モ亦同シ

第十四号
第四年甲
正考ニテ
アリテ
正考ニテ
アリテ
正考ニテ
アリテ

戸長筆者旅費日當表

名	稱	旅	費	ノ	額	里	滯	泊	日	當
戸	長	四	錢				三	十	錢	
筆	者	三	錢	五	厘		三	十	錢	

但一時備入ノ者旅費ハ總テ筆者ノ額ニヨル

○乙第六十四号 明治十二年七月七日

郡役所町村役場

本年七月以後各町村へ役場設置候ニ付其役場ノ印章ハ寸法字配等舊印章ニ倣ヒ該役場ニ於テ定額金ヲ以テ彫刻シ製成ノ上其印影ハ本廳并ニ郡役所へ可届出此旨相達候事

但從來役場ノ儘ニテ分合等無之地ニ於テハ舊印章其儘相用ヘシ

○丙第百五十五号 明治十二年七月十一日

郡役所

各郡役所ニ於テ所分ノ條件ハ是マテ月繼ヲ以報告致來候所右ハ取調之都合モ有之左ノ條件ヲ除クノ外當分届出ニ及ハス候尤時機ニヨリ特ニ報告ヲ要スル歟又ハ其事務上ニヨリ主務課ヨリ直ニ照會候儀モ可有之候條此旨相達候事

(但書永式ニアラサルヲ以テ掲ケス)

一 郡内一般ニ告達スル事

右ハ一ヶ月繼ヲ以翌月五日マテ其地差立有無共報告スヘシ

○丙第百八十六号 明治十二年八月十二日

郡役所

別紙寫之通り廣島縣ヨリ照會越候條此旨相心得自今該事務之内其郡役所ノ負擔ニ屬スルモノハ同様可取計此旨相達候事
左ノ事件ニ關スル義ハ自今貴縣監獄署及ヒ郡區役所ヨリ直ニ本縣監獄署及ヒ郡區役所へ照會有之候様御取計被下度本縣ニ於テモ同様爲

郡村吏之部

取計候間御承知置被下度此段及御照會候也

廣島縣令

明治十二年七月

秋田縣令殿

一 所刑濟通報ノ事

一 變死行倒ノ事

一 郵送者ノ事

一 棄兒迷子ノ事

○丙第二百十号 明治十二年九月二日

郡役所

他管下ノ者ヨシテ變死傷ニ係リ警察官吏檢視濟之上尙本管地ニ照會ヲ要スルモノハ檢視官ヨリ通牒次第其本管地郡役所ニ直チニ照會シ所分上遞滯ナキヲ要スヘク此旨相達候事

○丙第二百五十四号 明治十二年十月十日

其郡内秋田町元一二三小區

南秋田郡役所

其郡内鷹巢村

北秋田郡役所

其郡内花輪村

鹿角郡役所

其郡内能代町

山本郡役所

其郡内牛島村 并南秋田郡秋田町元一二三小區

河邊郡役所

其郡内本庄町

由利郡役所

其郡内大曲村

仙北郡役所

其郡内横手町

平鹿郡役所

其郡内湯澤町

雄勝郡役所

郡吏ニ於テ郡内出張巡回ノ節経路之都合ニヨリ、一泊シ翌日他方ニ通行スル者成規之通り旅費支給候儀ハ勿論ニ候也御用柄ニヨリ二泊以上滞在スル者其滞在中ノ日當ハ支給致サス候此旨相達候

郡吏村之部

事

○丙第二百九十号 明治十二年十一月十二日

郡役所

事務勉勵ノ郡吏へ賞賜金及郡吏免職ノ節下賜候滿年賜金之儀ハ一時其郡役所ニ於テ繰替相渡追テ受取方可申出候儀ト可心得此旨相違候事

○乙第廿一号 明治十三年二月二十日

郡役所町村役場

各町村公有記録繪圖面等保存之儀ハ是迄一定ノ方法モ無之候所今般内務省ヨリ達之旨モ有之候條自今左ノケ條ニヨリ嚴重取締可致此旨相違候事

但時宜ニヨリ官吏派出檢査セシムル儀モ可有之候條此旨可相心得事

一町村公有ノ記録繪圖面等ハソノ目錄二通ヲ作り一ハ之ヲ役場ニ留

メ置キ一ハ之ヲ該郡役所ニ備ヒ置クモノトス

一自今新製ハ勿論從前散佚ノ舊記檢出スルトキハ年々一月七月ヲ以

該目錄ニ記載スルモノトス

一主管者變換ノ節ハ該目錄ト照合授受スヘシ

一人民私有ノ古記實錄等ニテ後証トモ成ル可キモノハ漸次謄寫シテ備フヘシ

一前條私有ノ書籍ヲ所有者其儘納本セントスルトキハ役場ニ於テ直

ニ之ヲ領收スルヲ得ルト雖此場合ニ於テハソノ書名并代價人名トモ詳記其都度本廳へ届出ヘシ

○丙第二百四十七号 明治十三年五月廿七日

郡役所

人民身代限リ申立財産取調方ニ付弘前裁判所秋田支廳ヨル照會有之

甲第六十

郡村吏之部

十三年丙
第四百卅
四号參照
十五年二
月廿八日
番外達參
照

本年甲第六十四号ヲ以及布達候條今後原被告ヨリ申出次第財産取調
方該村戸長役場へ相達調出候ハ、添書又ハ與印ヲ附シ同廳ニ可差出
此旨相達候事

○丙第二百九十七号 明治十三年
六月十五日

郡役所

郡長以下旅費并雇月給及郡書記以下宿直辨當料共別表之通り改定本
年七月ヨリ施行候條此旨相達候事

旅費表

名 稱	縣外旅費	赴任旅費	晝夜急行	滯 在	縣内並旅行 及巡回	滯 在
郡 長	三 圓	三圓八十錢	三圓八十錢	七 十 錢	壹圓六十錢	五 十 錢
郡 書 記	二 圓	二圓八十錢	二圓八十錢	五 十 錢	壹 圓	四 十 錢
雇	壹圓五十錢	壹圓九十錢	壹圓九十錢	三十五錢	七十錢	三十錢

十五年丙
第四百十
六号ニテ
追加アリ

旅費支給法方及郡長以下免職歸郷旅費ノ額ハ一般ノ定則ニ據ル郡書
記以下特ニ縣外出張ヲ命シ
官費支給スル分ハ其等級ニ應シ一般旅費ノ額ヲ以テ支給スヘシ

月給表

雇	一等級	二等級	三等級	四等級
	六 圓	五 圓	四 圓	三 圓

宿直弁當料表

名 稱	一 夜
郡 書 記	七 錢
小 使	五 錢

○丙第三百五十五号 明治十三年
七月十九日

郡長

本年内務省乙第三十号達ノ趣モ有之候ニ付テハ諸裁判所往復スル亦書ハ一般掛合回答之文体相用候義ト心得可シ此旨相達候事

○乙第六十九号 明治十三年七月廿六日

郡役所町村役場

一昨十一年三月乙第五十一番ヲ以テ利息制限ノ儀ハ人民相互ノ契約上ト雖モ制限ニ超過セルハ素ヨリ法律上ニ背反スルモノニ付右証書ニ興書割印不相成儀相達置候所今般其向ヨリ達之旨モ有之候條戸長ハ地所家屋等ノ書入質入ヲ公証スル迄ニテ利息ノ制限ニ超過スルト否トニ關セサルモノト可相心得此旨相達候事

○丙第三百八十八号 明治十三年八月九日

郡長

北秋田郡長川崎勝ヨリ用掛云々之義ニ付別紙ノ通伺出朱書ノ通及指令候條爲心得此段相達候也

用掛設置ノ義伺

雇員月俸額ノ義本年丙第二百九十七号ヲ以テ改定相成所寡少之定額何分一同實施相難候就テハ勸業又ハ衛生ノ一事ヲ專擔セシメ候向ニ限リ別ニ用掛ヲ置キ六圓以内適宜ノ月俸ヲ給シ其班ハ郡書記次席或ハ一等給雇上席等ノ如キ適位ヲ施行候ハ、寡少ノ給額ヲ以テ其人ヲ得ヘキヤノ考案モ有之且一ノ獎勵ニモ可相屬將一昨十一年内務乙第七十八号達第五項ニ抵觸モ有之間敷候條用掛ヲ設ケ給額ハ六圓以内適宜月俸支給ノ義共取計申度此段迅速御指揮相仰候也

明治十三年七月二十六日

查而伺ノ趣勸業衛生ノ事務ニ拘ハラズ用掛由付郡書記ノ次席トスルハ不苦候事

但郡役所經費預算内ヲ以テ支弁スルハ勿論ノ義ニ付其給額ハ六圓内外ナク問ハサル義ト相心得可シ

明治十三年八月七日

○丙第四百七十九号 明治十三年九月廿八日

各郡所

舊區長及戸長ヨリ郡吏へ轉任ノ者月俸支給方ノ儀ニ付昨十二年丙第
二百十八号ヲ以テ相違候趣有之候処右ハ取消以來戸長ヨリ郡吏へ轉
任ノ節ハ新任ノ例ニ例ヒ支給候儀ト可心得此旨相違候事

○丙第五百三十四号 明治十三年十月十八日

郡役所

郡長以下旅費等之儀ニ付本年丙第二百九十七号ヲ以相違候処用掛旅
費日當之儀ハ雇同様支給候儀ト可相心得此旨相違候事

但用掛雇宿直弁當料之儀ハ郡書記同様支給候儀ト心得ヘシ

○丙第十七号 明治十四年一月十九日

南秋田河各郡役所
邊ヲ除ク

郡長御用有之本廳へ出頭之儀自今切迫難差延急務之外ハ一切其事由
ヲ具シ經伺ノ上發途可致此旨相違候事

但切迫難差延急務有之發途致候節ハ出頭ノ上其事實詳細可届出
事

○乙第九号 明治十四年一月廿八日

郡役所町村役場

人民犯罪ニ因リ資力限リ追徴又ハ犯則等ニヨリ酒類或ハ器械等總テ
沒收之節公賣方戸長役場ニ於テ取扱來候得共今後郡役所ヲ經由候様
弘前裁判所秋田支廳ヨリ照會ニヨリ了承ノ旨回答及置候條得其意同
應ヨリ照會有之候ハ、郡役所ヨリハ戸長へ達シ爲取調猶檢査ヲ遂ケ
添書又ハ奥印ヲ付シ同廳へ可差出此旨相違候事

○丙第二百二十六号 明治十四年五月廿一日

郡役所

町村役場戸長筆者ノ旅費ハ從來役場ノ個數ニ依リ其割合ヲ定メ支給シタルモ該費ハ専ラ里程ノ遠近旅行ノ度數ニヨリ多少差異ヲ生スル義ニ有之依テ本年度ヨリ別紙豫算ノ趣旨ヲ以テ一郡限り分當ノ額相定可下渡候條其郡役處ニ於テハ各役場里程ノ遠近ニ因リ之ヲ分配スルモ又ハ實地ノ景狀ヲ量リ別ニ方法ヲ設ケ支給スルモ不若候就テ右一郡限り分當ノ金額調理ノ爲メ要用ニ有之候條首部役場ハ該所ヨリ郡役所へ達スル迄其他ノ役場ハ首部役場迄ノ里程各所限り取調速ニ届出ツヘシ此旨相達候事

但追テ其郡内各役場へ分配ノ額決定候上ハ其金額及方法共取調届出ツヘシ

一金五千五百拾壹圓 旅費豫算決定高

内譯

金千三百貳拾三圓拾錢 首部役場旅費増額

内

金七百拾壹圓六拾錢 戸長旅費

金六百拾壹圓五拾錢 筆者旅費

右旅費算出シタル法ハ首部役場ノ數九十五ヶ所ニシテ各首部ヨリ郡役所へ達スル延里數凡ソ三百八拾五里トシ毎月戸長筆者各一回ツ、郡役所へ往復シ及各一日ツ、滯泊スルモノト見積レリ

金貳千四百八拾壹圓七拾五錢 總役場旅費

内

金千三百貳拾三圓六拾錢 戸長旅費

金千百五拾八圓拾五錢 筆者旅費

右旅費算出法ハ管内總役場千百三ヶ所ニシテ壹ヶ所平均往復五里首部ハ郡役所へ達スル里程其他ノトシテ壹ヶ年戸長役場ハ首部ニ至ルノ里程ヲ算セリ

郡村吏之部

廿一

筆者各六回ツ、旅行スルノ見積リナリ
金千七百六圓拾五錢

是ハ各郡内役場ノ數ニ依リ平均分當ノ額ヲ定メ郡役所へ渡
置キ縣廳郡役所裁判所等へ呼出其他不時ノ事件ニ付旅行ス
ルルニ當リ其時々郡役所ヨリ支給スルモノトス故ニ此分ニ
限リ豫シメ役場ノ定額ニ加へ置カサルモノナリ

右旅費豫算内譯ハ實地里程ノ遠近及旅費ヲ要スル役場ト要セサル分
ト取調届出ノ上其金額ニ於テ彼是増減アルヘシト雖也戸長筆者旅行
及滯泊ノ度數并役場定額ノ内へ加へ月々下渡スモノト郡役所限リ渡
シ置クトノ區分ハ前ノ趣旨ニ依リ變換セサルモノトシテ取調フヘシ

○乙第三十八号 明治十四年
五月廿六日

郡役所町村役場

刑事上裁判所ヨリ戸長呼出旅費及糶賣金其他書類遞送費等本廳へ受

取方申出候向モ有之候所右ハ該町村役場定額費ノ内ヨリ支辨スヘキ
儀ト可相心得此旨相達候事

○乙第五拾七号 明治十五年
六月十九日

町村役場

諸願伺書事理不當ト認ムルモ強テ進達テ欲スル者ハ心ス添書ヲ附ス
ヘキ旨過ル十一年乙第百六番ヲ以テ相達置候ニ就テハ其願伺並蔽ノ
弊害等ハ無之筈ニ候得共万一有様ノ儀有之ニ於テハ不都合不少ニ付
尙一層注意可致此旨相達候事

○丙第三百八十壹号 明治十四年
八月五日

郡役所

郡役所支出ニ係ル諸經費増減ノ理由別冊説明書雛形ニ照準左之手續
ニヨリ調製翌年七月卅一日限リ可差出此旨相達候事
(但書一時ニ係ルヲ以テ刪除)

第十一年乙
第百六番
ハ趣意茲
ニハ明瞭ナ
ルヲ以テ不
掲

一 諸經費ノ増減ハ凡テ縣會ニ於テ議決シタル豫算ノ金額ニ對シ差引
スルモノトス

一定額外特ニ下渡シタル増費及役場分裂等ニテ増加シタル分ハ凡テ
超過ニ取調フヘシ

一 役場ノ經費ハ實際ノ個數ヨリ計出シタル定額ト旅費ノ里數ニ依
リ本縣ヨリ割當テタル額トナ合セテ豫算トナスヘシ

一 郡廳舎揭示場營繕費及恩賞爲替方給料ニテ其時々實費ヲ以テ本廳
ヨリ可下渡分モ豫算ハ其全額ヲ掲出スヘシ

一 郡長増給ノ分ハ超過ニ取調フヘシ

一 經費内譯科目離形之義ハ其概略ヲ掲記シタルモノニ付給仕給料以
下項目其他右ニ對スル小科目ノ内へ尙ホ細科目ヲ設ケ凡ソ人員ノ
多少給額ノ區別其他度數種類品目等ニ依テ區分アルモノハ可成詳
明列記スヘシ

別冊

明治何年度諸經費増減説明書

郡役所經費

明治何年度經費精算額ハ若干圓ニシテ其豫算ニ對シ
若干圓ナリ依テ各科目ニ就キ其増減ノ理由ヲ説明シ次テ各科目精算
ノ金額ヲ掲出スル左ノ如シ

何費(給料給與旅費
等ノ科目ヲ云)

此精算ノ金額ヲ以テ豫算ニ比シ若干圓ヲ超過セシハ何費(郡長月給
給給仕給料等)ハ若干圓ヲ減少セシト雖モ何費ハ何々(其事由ヲ詳
ノ科目ヲ云)ニ依テ若干圓ヲ増加セシト又何費ニテ若干圓ノ増加ヲ要スルヲ以テ
差引此超過ヲ生ス

何費

此精算ノ金額ヲ以テ豫算ニ比シ若干圓ヲ超過セシハ何々ニ依リ何

費ニテ若干圓ノ増費ヲ要シ又何費ハ何々ニ付若干圓超過セルニ依
リ併テ此超過ヲ生ス

(余ハ前例ニ倣ヒ増加ノ事由ヲ詳記スヘシ)
以上超過ノ通計金

何費

(増加ノ部ニ倣ヒ其事由ヲ詳記スヘシ以下全シ)

何費

以上減少ノ通計金

豫算金

一金

此譯

金

金

郡吏員給料旅費及廳中諸費

給料

內譯

金

金

金

金

內

郡長月給

郡書記月給

郡書記何人給
郡書記何人給
郡書記何人給
郡書記何人給
郡書記何人給
郡書記何人給
郡書記何人給
郡書記何人給
郡書記何人給
郡書記何人給

給與

金

金

郡村吏之部

郡村吏之部

金 金 內 金 金 金 金 內

滿年賜金

恩賞

小使宿直賄料

夜業弁當料

郡吏宿直賄料

廿五

金 金 金 金 內 金

諸賄料

臨時雇入足賃

爲替方給料

小使給料

給仕給料

諸雇給

郡村吏之部

明
治
何
年
度
營
繕
費
精
算
額
ハ
若
干
ヨ
シ
テ
其
豫
算
ヨ
比
シ
若
干
圓
ヲ
超
過
セ
減
少
セ

郡
廳
合
營
繕
費

金	金	金	金	金	金	金	金	金	內
					消 耗 品	備 付 品	檢 丁 費	郵 便 電 信	雜 費

金	金	金	金	金	金	金
需 用 費	內 課	應 費	郡 書 記 旅 費	郡 長 旅 費	內 課	旅 費
						勉 勵 賞 與

シハ何所ハ何々ニシテ修繕ヲ加フルモ何所ハ又何々ニ付建設セシテ
(或ハ)何々セシヲ以テ此超過ヲ生ス依テ精算ノ金額ヲ掲出スル左ノ如
シ(十三年度豫算ハ各郡限ノ金額ナキヲ
以テ該費ヲ要求セシ事由ヲ説明ス可シ)
豫算金(十三年度ハ精算額ノミヲ記載スヘシ)

一金

郡廳合新築
修繕費

此譯

金

諸雇給

金

需用費

揭示場營繕費

増減ノ説明精算額ノ仕譯等凡テ郡廳合營繕費ノ例ニ倣ヒ記載スヘシ
役場經費

明治何年度經費精算額ハ若干圓ニシテ其豫算ニ對シ超過スル總額ハ
若干圓ナリ依テ各科目ニ就キ其増減ノ理由ヲ説明シ次テ各科目精算

ノ金額ヲ掲出スル左ノ如シ

何費

(凡テ郡役所經費ノ例ニ倣フヘシ)

何費

以上超過ノ通計金

何費

(全上)

何費

以上減少ノ通計金

豫算金

一金

此譯

金

戸長以下給料戸長職務取扱諸費

郡村吏之部

郡村吏之部

金	金	金	金	金	金	金	金	内譯
金	金	金	内譯	金	金	金	金	内譯
			用需費			備旅費		戸長旅費
			備付消耗品					
			運送費					

金	金	金	金	金	金	金	内譯	
金	金	金	内譯	金	金	金	内譯	
			給興			備給料		給料
			諸備			戸長給料		
			旋費					

金

郵便電信

○丙第六百壹号 明治十四年十二月十九日

郡役所

從來三大節郡吏賀表差出方一定之成規モ無之候所自今當日午前第十時禮服着用其所へ出頭之上左之雛形ニ倣ヒ本廳へ可届出此旨相達候事。

但南秋田河邊兩郡並各郡ヨリ出縣中ノ郡吏ハ同刻禮服着用本廳へ參賀可致候事

雛形 料紙ハ美濃紙ヲ用ユ

郡吏賀表書式

謹奉賀 何郡長姓名

新年 何郡書記

紀元節 全

天長節 全

全

全

年月日

○号丙 明治十五年 外丙 二月二十八日

郡役所

本年丙第四百十六号達取消明治十三年丙第二百九十七号達郡長以下旅費日當表解釋左之通改正候條此旨相達候事

旅費支給方法并郡長以下新任ノ者採用ニ付呼出ノ旅費及免職歸郷旅費ノ額ハ一般ノ定則ニ據ル郡書記以下特ニ縣外出張ヲ命シ官費支給スル分ハ其等級ニ應シ一般旅費ノ額ヲ以テ支給スヘシ

○明治十五年 四月廿日

郡長 警部在ラ戸長
サル地ノ

郡村吏之部

郡長及戸長ニ於テ司法警察事務執行ノ場合ニ於テハ別紙心得書ニ照依シ所分可致此旨内達ニ及ヒ候事

郡長戸長司法警察事務取扱心得

第一條 郡長及警部ノアテサル地ノ戸長ニ於テ治罪法ノ規則ニ從ヒ

司法警察事務執行ノ場合ニ於テハ左ノ各條ニヨリ之ヲ處辨スヘシ

第二條 都テ作ルヘキ書類ハ治罪法第廿五号第廿六條ニ從フヘキハ

勿論ナリト雖モ其書体ハ楷書又ハ行書ニ片假名ヲ雜ヘ行文ハ可成

簡明ナルヲ要ス

第三條 告訴告發ヲ受ケタルキ書面ヲ以テスルモノハ先ツ之ヲ檢閱

シ一應本人ニ讀聞セ治罪法第九十四條ノ規則ニ從ヒ其証憑及ヒ事

實參考タルヘキ事ヲ中立サセ書面確實ナルヲ証明シタルキハ第一

号書式ニヨリ末尾ニ附記ス可シ

其書面ニ脱漏アルカ又ハ組語シタル廢アル旨中立テタルキハ第二

号書式ニヨリ調書ヲ作り尙之ヲ本人ニ讀聞セ共ニ署名捺印スヘシ
若シ告訴告發人署名捺印スルコト能ハサルキハ第二号書式付記例ニ
ヨリ其旨ヲ付記ス可シ

告訴告發人口述ヲ以テナシタルキハ治罪法第九十五條規則ニ從ヒ

第三号書式ノ調書ヲ作ル可シ

告訴人ニハ第四号書式ノ証書ヲ渡ス可シ

告訴告發ヲ受理シタルキハ第五号書式ニヨリ添書ヲ付シ速ニ所管

警部ヲ經テ檢察官ニ送致スヘシ

第四條 告訴告發ヲ受ケ未ク檢事ニ送致前願下ケントスルモノアル

キハ書面ヲ以テナサシム可シ

前項ノ場合ニ於テハ告訴告發ノ本書ヲ下付セス其願下ケテ聽許シ

タル旨第六号書式ニヨリ指令書ヲ本人ニ下付ス可シ

願下ケ願書ハ二通ヲ出サシノ其一通ヲ下付シ一通ハ告訴告發ノ本

書ニ添へ所管警部ヲ經テ檢察官ニ送致スヘシ
告訴告發人其中立ヲ變更セント請フモノアルキハ第三條ノ手續ニ
從ヒ之ヲ調理シ又前項ノ例ニ從フ可シ
告訴告發人其願下ケナシ又ハ中立ヲ變更セント申請シタルキハ
其理由ヲ問ヒタル上ニテ之ヲ聽許ス可シ
第五條 告訴告發ヲナスモノ代人ヲ以テ中立又ハ其願下若シハ先
キノ申立ヲ變更セントスル場合ニ於テハ先ツ其委任狀差出サシム
可シ
無能力者ノ爲メ法律ニ定メタル代人ナルキハ特ニ委任狀ヲ要セス
其代人ニ相違ナキヤ否ヤヲ証明セシムヘシ
第六條 告訴告發己ニ檢事ニ送致シタル后其願下若クハ申立ヲ變更
セント申請スルモノアルキハ直チニ檢事ニ申立ツヘキ旨ヲ諭スヘ
シ若シ願書アラハ假ニ之ヲ受領シ檢事ニ送致スルヲ得

第七條 被害者若シ告訴告發ト俱ニ私訴ヲナサントスル者アルキハ
先ツ其請求スル処ノ目的ヲ問ヒ第三條ノ手續キニヨリ之ヲ調理シ
速ニ所管警部ヲ經テ檢察官ニ送致スヘシ
現行犯處分

第八條 治罪法第二百二條ノ場合ニ於テ被告入ヲ逮捕シタルキハ其身
体衣裝血痕ノ有無及兇器贓物ト察スヘキモノハ携帯スルカ否ヤヲ
精査シ竊カニ物件ヲ投棄隱匿シ或ハ他人ト接話スルヲ防制シ治
罪法第四百四條及第二百五條ノ例ニ從ヒ處分スヘシ

第九條 前條ノ場合ニ於テ被告人ヲ訊問スルキハ其訊問及ヒ陳述ヲ
錄取シ之ヲ被告人ニ讀聞カセ其陳述ノ相違ナキヤ否ヤヲ問ヒ署名
捺印若シハ捺印セシム若シ之ヲ爲シ能ハサルモノハ其旨ヲ付記
スヘシ
被告人若シ其陳述ヲ變更増減セントチ申請シタルキハ前項ノ例ニ

從ヒ更ニ訊問ヲナスヘシ

被告事件急遽ニ涉リ若クハ證據湮滅ノ恐レアルキハ被告人訊問前
檢証ヲナシ又ハ証人訊問スルヲ得

本條ノ場合ニ於テハ第七号書式ニヨリ其調書ヲ作ルヘシ

第十條 被告人ヲ訊問スル場合ニ於テハ其罪ヲ白狀セシムル爲メ恐
嚇又詐言ヲ用ユヘカラス

第十一條 被告人ノ共犯ナルヲ人違ナキヲ其他犯罪ノ模様ヲ証スル
爲被告人ト他ノ被告人若クハ其場ニ居合セタル証人ト對質セシム
ルヲ得其對質人ノ陳述及ヒ對質ニ依リ生シタル一切ノ事件ヲ錄
取シ其對質ニ關スル部分ヲ對質人ニ讀聞セ相違ナキヤ否ヤヲ問ヒ
署名捺印若シクハ捺印セシム對質セシムルキハ第八号書式ニヨリ
其調書ヲ作ルヘシ

第十二條 重罪輕罪ノ被告人其罪ヲ自首スル場合ニ於テ書面ヲ以テ

スルモノハ第九号書式ニヨリ末尾ニ付記シ口頭ヲ以テスルモノハ
第十号書式ニヨリ調書ヲ作り第十一号書式ニヨリ添書ヲ付ス速ニ
所管警部ヲ經テ檢察官ニ送致スヘシ時宜ニヨリ書類ト共ニ被告人
ヲ引渡スヲ得

第十三條 逮捕シタル被告人ハ送致スルマテ一時最寄警察署又ハ分
署ニ留置スルヲ得

檢証及物件差押

第十四條 部内ニ重罪輕罪ノ現行犯アルヲ認知シタルキハ治罪法
第二百五條ノ規則ニヨリ直チニ現場ニ臨ミ速カニ檢視処分ヲ行フ
ヘシ若シ巡查ヲ要スル場合ニ於テハ最寄警察署又ハ分署ニ照會ス
ヘシ

十四年太政官第
八十二号達參考

第十五條 臨檢ノ場所ニ於テ發見シタル物件ハ其出所及ヒ模様ニヨ

リ犯罪ヲ証明スルコ足ルヘキモノト思料シタルハ差押テ認印ヲ
ナシ第十二号書式ニヨリ目錄ヲ作り立會人ト俱ニ署名捺印シ其際
本ヲ立會人ニ渡スヘシ

其運搬スヘキ物品ハ被告人ト共ニ送致スヘシ

第十六條 死傷者ハ心ス醫師ヲシテ檢案セシメ第十三号書式ニヨリ
鑑定書ヲ作ラシムヘシ

鑑定ヲ要シタルハ其鑑定人ヨリ旅費日當其他鑑定ヲ爲スニ付テノ
費用ヲ請求シタルハ其請求書ヲ一件書類ト俱ニ送致スヘシ

第十七條 都テ檢視ハ犯罪ノ場所及犯罪ノ用ニ供シタル物件其地犯
罪ノ証明ニ用立ヘキ物件ヲ捜査シ變死ニ係レハ疵傷ノ有無致命ノ
原由兇器ノ種類等ヲ檢シ第十四号書式ニヨリ一般ノ摸樣ニ就テ其
調書ヲ作ルヘシ

第十八條 何レノ場合ニ於テモ所犯ノ時刻ヲ確知スルヲ要ス

若シ兇殺等ニテ其時刻確知スヘカラサルハ被兇前何日何時何地
ニ於テ何ノ誰カ面會シタルコアルヤヲ探偵スヘシ

第十九條 現場ニ存在スル証憑物件ヲ押收スルノ外尙被告人ノ住處
又ハ是等ノ物件ヲ藏匿スルノ疑ヒアル場處ニ臨檢搜索スルハ治
罪法第六十一條ヨリ百六十七條マテノ規則及本則ノ第十五條ノ
例ニ從フヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第十五号ノ書式ニヨリ調書ヲ作ルヘシ

第二十條 都テ押収シタル書類物件ハ各名標ヲ付シ押収ノ年月日並
ニ物品ノ種類及出處等ヲ略記シ若シ原體ノ消滅又ハ散失ノ虞アル
モノハ之ヲ固封シ其封上及之ニ認印ヲナシ本則第十五條ノ例ニ從
フヘシ

第二十一條 現行犯ノ場合證人ヲ訊問スルハ被告人又ハ被害者ノ
親屬雇人等ナルヤヲ問ヒ若シ是等ノモノナルハ其旨ヲ調書ニ記

八月廿八日
無号ニ
テ删除
アリ

スヘシ調書ハ證人ニ讀聞カセ相違ナキヤ否ヤナ問ヒ署名捺印セシム
 ム若シ之ヲナシ能ハサルキハ其旨附記スヘシ
 證人其中立ヲ變更増減セント申請スルキハ更ニ訊問ヲナシ其旨ヲ
 調書ニ記載シ署名捺印セシム
 證人ヲ訊問シタルキハ第十七号書式ニヨリ其調書ヲ作ルヘシ
 第二十二條 死屍及ヒ負傷者ハ檢視處分ヲ終リタル後其家人又ハ親
 屬隣佑ニ引渡スヘシ若シ本籍遠隔又ハ分明ナラサルモノハ郡長ハ
 現地ノ戸長ニ引渡シ戸長ハ便宜處分スヘシ
 第二十三條 兇殺ニ係ル屍体ハ何時ニテモ發掘スヘキ様假埋セシメ
 檢事ノ指揮ヲ乞フヘシ
 第二十四條 檢證處分結了シタルキハ治罪法第二百五條二項ノ規則
 ニ從ヒ證憑物件ニ意見書ヲ添書式第十八号 被告人ト共ニ速ニ處管發部
 ナ經テ檢察官ニ送致スヘシ被告人捕ニ就カサルキモ亦前項ノ例ニ

從ヒ書類ヲ送致スヘシ

被告人ヲ送致スルキハ最寄警察分署ニ引渡シ傳遞護送セシム

第壹号

告發狀末尾附記書式

明治何年何月何日午^前何時何ノ某當處ニ出頭シ右告發狀ヲ差出シタ
 ルニヨリ尙本人ニ對シ之ヲ讀聞セタル處正實偽ナキ旨申立ルヲ以テ
 此旨ヲ附記ス

何郡長(或ハ何郡何町村戸長)

年 月 日

何ノ某印

第二号

符合セサルキノ告發調書々式

明治何年何月何日何ノ某ニ於テ差出シタル別紙告發狀ニ對シ尙之レ
 ナ訊問シ其陳述ヲ錄取スル左ノ如シ

郡村吏之部

一何々々
一何々々

右讀聞セタル處正實偽リナキ旨申立ルヲ以テ本職ト俱ニ署名捺印ス

告訴人
何ノ某印

何郡長(或ハ何郡何町村戸長)

年 月 日

何ノ某印

附記例

告訴人ハ何々ノ事由ヨテ署名捺印スルヲ能ハサルヲ以テ本職其名ヲ
代署シ本人ヲシテ押印(又捺印)セシメタリ
第三号

告訴調書々式

何府何國何郡何番地
身分職業

何ノ某

年齢

右ハ何年何月何日午(前)何時(又)何住處身分何某ヲ引致シ(當處(又)役場)
へ出頭シ左ノ事項口述ヲ以テ告訴ス

一何々
一何々

右ノ陳述ニヨリ之ヲ書録シ讀聞カセタル處正實偽リナキ旨申立ルヲ
以テ本職ト俱ニ署名捺印ス

告訴人
何ノ某印

何郡長(又)何郡何町村戸長

年 月 日

何ノ某印

附記例二號書式ニ同シ

第四號

告訴受領証書式

郡村吏之前

卅五

受領証

何郡區何町村身分何某ニ對シ何々々告訴狀受領候也

何郡長(何郡何村戸長)

何ノ某印

第五號

告訴狀送致書式

別紙何ノ某告訴發書及御送付候也

何郡長(又何郡何村戸長)

何ノ某印

年 月 日

何裁判所(何警察署)

檢事(又警部何某殿)

第六號

告訴狀願下指今書々式

書面願之趣聞届候事

何郡長(又何郡何村戸長)

何ノ某印

年 月 日

第七號

被告人調書々式

何年何月何日本職何郡何村ニ於テ逮捕シタル(或何ノ某引致シタル)被

告人何ノ某ニ對シ之ヲ訊問シ其陳述ヲ書録スル左ノ如シ

問汝ノ姓名住処身分職業年齡出生ノ地ハ如何

答何々

問何々

答何々

右相違不申上候以上

被告人 何ノ某印

郡村吏之部

卅六

右讀聞セタル處相違ナキ旨甘結セリ因テ署名押印セシメ且ツ茲ニ按名押印セリ

何郡長(又何郡何村戸長)

何某印

年 月 日

附記例第二號書式ニ同シ

第八號

對質調書々式

何年何月何日被告人何某ト証人何某トニ對質シ其陳述ヲ書録スル左ノ如シ

問被告人何某ハ何々

如何

答何々

問証人何某ハ何々

如何

答何々

問被告人某ハ何々

如何

答何々

問証人某ハ何々

如何

答何々

右相違不申上候以上

被告人 何ノ某

証人 何ノ某

右對質ニ關スル部分ヲ讀聞セタル所各相違ナキ旨申立ルヲ以テ署名捺印セシメ且茲ニ按名押印セリ

何郡長(何郡何村戸長)

何ノ某

年 月 日

附記例第二號書式ニ同シ

第九號

郡村吏之部

自首書末尾ニ附記スル書式

何年何月何日午前後何時何某當所(又役場)へ出頭シ右自首狀差出シタル
ヲ以テ尙之ヲ本人ニ讀聞セタル所正實ナルヲ申立ルニ付此旨附記ス

何郡長(何郡何村戸長)

年 月 日

何ノ某印

第十號

口頭ヲ以テ自首スルキ調書々式

何縣何郡何村何番地

身分職業

何ノ某

年齢

右ハ何年何月何日何前後時當所(又役場)へ出頭シ口述ヲ以テ左ノ犯罪ヲ

自首ス

一何々

々々

一何々

右ノ陳述ニヨリ之ヲ書録シ讀聞セタル所正實ナル旨申立ルヲ以テ茲
ニ按名押印セリ

自首人

何某印

何郡長(何郡何村戸長)

何某印

年 月 日

第十一號

自首書へ添書々式

別紙何某自首書及御送附候也

何郡長(何郡何村戸長)

何ノ某印

年 月 日

郡村吏之部

卅八

何裁判所 ハ 又 何警察署

檢事 ハ 又 警部何某殿

第十二号

目錄書式

何々目錄

一何々

但製爲何々

右ハ何某方ニ於テ押收シタル被告何某ナルモノ差置品云々

一金何圓

一衣類何枚

内

男向キ何枚

女向キ何々

右ハ現場ニ於テ被告何某ヨリ押收シタル何某被盜品

一何々

右被告人所持品

取調人

何郡長 ハ 又 何郡何村何町何長

年 月 日

何ノ某印

立會人

何ノ某印

第十三号

醫員鑑定書々式

何府何郡何町何番地

身分職業

何ノ某

何年何ヶ月

郡村吏之部

卅九

右死体(又創傷)檢按スル所

一何部傷長サ何寸深サ何寸

一何々々

一何部打撲何々

以上何々器ヲ以テ毆傷セシモノナリ

右致命ハ何部ノ何傷(又)死後凡ソ何日間經過セシ(或ハ)不意ニ毆撃セ

ラレ(又ハ)所爲ニ相違ナキ云々(又ハ)之ニ何々ノ處方ヲ施シ候云々依テ

檢按書如件但鑑定時間ハ何時ヨリ何時マテ

何郡何村何番地

醫師

何ノ某印

年 月 日

第十四号

檢視調書々式

何年何月何日午前後何時何村何番地身分職業何某ヨリ何々ノ旨申告(或

ハ訴)ニヨリ迅速該家該所へ出張(又何々ヲ現場見認メ)同居親屬又ハ隣

何縣何郡區何村何番地

身分職業何ノ某何男女

又ハ弟妹雇人

何 某

一場所何々

一所犯ノ時刻何年何月何日何時

一何所ニ於テ何々其形狀ヲ詳細記載スヘシ

一疵所アルモノハ(何部ニ何寸何分ノ突キ(摺リ)疵又首手足ヲ切り落シ

又ハ何部皮膚色青赤コシテ腫起スルカ或ハ滿腫膨脹シテ疵ノ有無

一右又ハ左ヨリ切突キ等或ハ出血ノ多少

一絶脈ヨリ何時何分ヲ過シカ

一着服何々ニ血染ルカ(又ハ何々所切レ居等細記ス
右ノ景狀ヨリ(何々)或ハ證人云々又ハ行兇人出入ノ證跡何々有之謀
殺又ハ強盜ノ所爲ト見認メル云々或ハ本人平素ノ行跡等云々依之死
体(傷者)ハ親屬或ハ故舊何某ニ引渡シ(又ハ假埋爲取斗)醫員ノ檢案證人
供何証憑物件取纏メ本職調書ヲ作り立會人ト俱ニ按名押印セリ

何郡何町ニ於テ

何郡長(何郡何町)戸長

何ノ某

立會人

親屬

何ノ某

附記例

出張先ニ付所(又ハ役場)印ヲ用ユルヲ能ハサルヲ以テ此旨附記ス

年 月 日

第十五号

檢証調書々式

何年何月何日午(前)後(何)時(何)郡(何)町(何)番地身分職業何某ヨリ何々ノ旨申
告(又ハ訴出)ニヨリ便速現場(又該家)ニ出張同居親屬又ハ隣佑何某ヲ立
會セ檢證所分ヲ行フ左ノ如シ

一何々々

一何々々

右檢證結了シタルヲ以テ証憑文書物件ヲ取纏メ此調書ヲ作り立會人
ト俱ニ署名捺印セリ

何郡何町ニ於テ(又)何某宅ニ於テ

何郡長(何郡何町)戸長

何ノ某印

立會人

年 月 日

郡村吏之部

附記例第十四号書式ニ同シ
第十六号

搜索調書々式

何年何月何日午前何時被害者何郡何町何某宅ニ於テ何々檢証所分テ
繼續シ被告人何郡何町何某宅ニ進行シ隣保立會セ家宅搜索ヲナス
左ノ如シ

一何々
一何々
一何々

親屬
隣佑
何ノ某印
何ノ某印

一何々

依之何之物件ヲ搜索シ此調書ヲ作リ立會人ト俱ニ署名捺印セリ

年
月
日

何郡何町ニ於テ(又何某宅ニ於テ)
何郡長何郡何町戸長
何ノ某

立會人
親屬

何ノ某印

附記例十四号書式ニ同シ
第十七号

証人調書々式

何年何月何日何郡何町何番地何某宅ニ於テ檢視処分ヲ行ヒタル后追
次證人ヲ訊問其陳述ヲ錄取スル左ノ如シ

郡村吏之部

何府何區何村何番地
身分職業

何某

年齡

一自分義何々々

一何々々

右相違不申上候以上

肩書前同斷

何ノ某印

何ノ某印

年齡

一自分義何々々

一何々々

問何々

答何、

問何々

答何、

右相違不申上候以上

何某印

右讀聞カセタル所各相違ナキ旨申立ルヲ以テ署名捺印セシメ且茲ニ
按名押印ス

何郡長何郡何村戸長

何某印

年 月 日

附記例第二号書式ニ同シ

郡村吏之部

第十八号

意見書々式

明治何年何月何日何區郡何町何番地何某ヨリ何々ノ旨告訴ニヨリ治罪法第二百五條ノ法章ニ從ヒ便速現場ニ出張取調候處別紙第何号ヨリ何号ニ至ル証憑書類ノ通犯情明白ニ付逮捕シタル被告人何某ト俱ニ一件書類及御送致候也

何郡長何町戸長

年月日

何ノ某印

何裁判所又警察署

檢事又警部何某殿

○乙第四十六号 明治十五年五月一日

郡役所町村役場

寄留人願伺届取扱方之儀ニ付明治八年第五十五号公達之旨モ有之候

處郡區編制地方職制更定相成候付テハ該願伺届ノ内郡區長又ハ戸長ノ取扱ニ屬スルモノハ處分ノ上其旨本籍郡區長又ハ戸長ニ通報可及此旨相達候事

○乙第四十九号 明治十五年五月十二日

郡役所町村役場

區町村會若クハ水利土功ノ集會ニ於テ評決シタル土木費ノ怠納者ハ明治十年十一月第七十九号布告ニ據リ處分スヘキ旨昨十四年第二十四号ヲ以布告相成候處右ハ郡長ノ處分ニ屬スル義ト可相心得此旨相達候事

○丙第二百二十号 明治十五年五月二十三日

郡役所

客年文部省第八号達學務擔任郡區書記事務要項及本年本縣丙第二十一号達郡長委任條件ニ據リ郡役所學務掛所務規程ヲ制シ來ル六月十

十五年丙
第廿一號
達ハ本年
甲第百廿

郡村吏之部

四十四

八号達ニ
テ消滅ス
ルヲ以テ
不掲

日限リ本廳へ開申スへシ此旨相達候事

但本文ノ件改正變更候節ハ其都度開申候義ト心得へシ

○乙第六十七号 明治十五年七月十八日

郡役所町村役場

戸長不在其他事故アルトハ該町村役場筆者ニ於テ代理可致等ノ處數
町村戸長運署ヲ要スル願伺届等ニ他町村ノ戸長又ハ筆者ニテ代理致
シ差出候向有之不都合ニ候條右等ノ義無之様致ス可ク此旨相達候事

○乙第七十六号 明治十五年八月七日

郡役所戸長役場

各廳事務ニ係ル上申往復等ノ公文ヲ新聞紙ニ掲載不相成義ハ明治八
年第五百五十八号公達ノ趣有之候所郡長特任條件ニ限リ郡長ニ於テハ
公布ヲ要シ益アリト認ムルモノハ新聞紙へ掲出爲致不苦候得共戸長
役場ニ於テハ上申往復等ニ係ル公文新聞紙へ掲出不相成義ト可心得

此旨相達候事

○甲第二百二十八号 明治十五年九月十二日

郡長管掌事務ノ外特別委任條件ノ義ニ付明治十二年甲第二号第七号
第九十九号第百六十号第百八十五号第百九十八号第二百五号同十三
年甲第百号第百二十七号同十四年甲第八号第卅三号本年甲第八号ヲ
以テ布達置候處右總テ相應止更ニ別紙條件委任致候條此旨布達候事

一行旅病人遞送之事

一教院說教場設立場處之事

一祠官掌並ニ住職旅行願之事

一管内社寺院開扉開帳願之事

一社寺境内之竹木代探願之事

但社寺官有境内ノ竹木伐採ハ此限ニアラス

郡村吏之部

十五年丙
第五百五
號ニテ
改正アリ

一 棄兒養育米渡方之事

一 改氏改名願之事

一 戸主退身願之事

一 相續人及入夫願之事

一 絶家再興願之事

一 復籍及附籍之事

一 戸籍脱漏入籍願之事

一 戸籍面誤謬修正願之事

一 士族死亡跡相續及除族跡襲族延期願之事

一 家女ノ妻離縁願之事

一 縣社以下並寺院舊規ニ依リ修繕之事

但式内國史現在社其官有地ニ係ル分及ヒ再建摸樣換ハ此限ニア
ラズ

一 改葬願之事

但戌辰之役戰死者ノ改葬ハ此限ニアラス

一 國民軍名簿ヲ編製シ及加除スル事

一 第一凶荒豫備之事

一 郵便爲換局臨時檢閱之事

一 郡内物産表調成之事

一 民林伐採願之事

但保護林ハ此限ニアラス

一 民有地土石堀採掘ヲ開置シ事

一 市場ニ關スル願之事

但羅駒場ハ此限ニアラス

一 牛馬賣買鑑札願之事

一 町村立私立學校幼稚園書籍館ノ職員及學務委員ヲ監督スル事

郡村吏之部

- 一 町村立私立學校幼稚園書籍館ノ建築及移轉ノ件ヲ所分スル事
- 一 就學督責之事
- 一 町村立學校ノ出納ヲ監視スル事
- 一 町村立私立學校幼稚園書籍館ノ職員及學務委員ノ暇願ヲ処分スル事
- 一 町村立私立學校幼稚園書籍館ノ職員及學務委員ノ除服ヲ所分スル事
- 一 小學分教場開廢之事
- 一 町村立私立學校及巡回授業ヲ監視スル事
- 一 小學校ニ於テ一週間以内ノ閉業ヲ所分スル事
- 一 町村立私立學校幼稚園書籍館ヲ監視スル事
- 一 賣藥請賣行商願之事
- 一 種痘之事

- 一 醫生産婆針灸者藥舖製藥家賣藥者ヲ監視スル事
- 一 公園地取締之事
- 一 市街道路溝渠廁圍芥溜糞培所等ヲ清潔ナラシムル事
- 一 針灸者開廢願之事
- 一 町村醫設置ノ事
- 一 町村衛生委員ヲ監督スル事
- 一 墓地火葬場取締人ヲ監督スル事
- 一 貸下地ニアル建物書入賣買ニ與書スル事
- 一 酒類營業願之事
- 一 烟草營業願之事
- 一 醬麴營業願之事
- 一 雜收入金ヲ徵收スル事
- 一 地方稅ヲ課スル諸營業及雜種免許願之事

十五年甲
第百五十五号ニテ
删除アリ

但梁川留持場漁業及會社演劇帶間人寄席諸與行藝妓營業願ハ本
條ノ限ニアラス

- 一 舟車ニ關スル願之事
 - 一 船舶賣買歸國者鑑札添翰之事
 - 一 道路掃除丁場ヲ定ムル事
 - 一 道路修繕ノ爲メ往來留之事
 - 一 水害表調製之事
 - 一 代米納預リ米願之事
 - 一 損傷紙幣交換之事
 - 一 公債証書利子下附之事
 - 一 諸貸下金年賦返納ヲ徵収スル事
 - 一 諸貸下金返納期限後六ヶ月以内ノ延納ヲ許ス事
- 但第二救荒豫備資金ヲ以テ貸下ケタル分ハ本文ノ限ニアラス

- 一金祿公債証書保護預リ願之事
- 一 難破船漂流物所分之事

右委任條件ハ總テ成規例格ニ照シ處分スルモノトス

十五年甲
第百六十
三號參照

○甲第百六十二号 明治十五年
十二月廿六日

明治十二年一月第十号戸長公撰規則相廢シ更ニ戸長公撰法別紙之通
相定候條此旨布達候事

但從來ノ諸達指令等本文戸長公撰法ニ抵觸スルモノハ總テ消滅
候儀ト相心得ヘシ

戸長公撰法

第一條 戸長ハ其所轄町村人民ノ公撰ニ付シ投票多數ノ者ヲ取テ郡
長ヨリ具申シ縣令之ヲ任定スルモノトス

第二條 戸長タルヲ得ヘキモノハ滿二十歳以上ノ男子ニシテ其町村

内ニ滿一年以上在籍現住シ其町村内ニ土地又ハ家屋ヲ有スル戸主
及其相續人ニ限ルモノトス

但左ノ各款ノ中ニ觸ル、モノハ戸長タルヲ得ス

第一款 風癲白痴ノ者

第二款 舊法ニ依リ一年以上懲役及國事犯禁獄ノ刑ニ処セラレ
滿期後五年ヲ經サル者

新法ニ依リ公權ヲ剝奪及停止セラレタル者又ハ一年以
上輕重禁錮ノ刑ニ処セラレ主刑滿期後五年ヲ經サル者

第三款 身代限ノ処分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款 官吏教導職

第三款 戸長ヲ撰舉スルヲ得ヘキモノハ滿二十歳以上ノ男子ニシテ
其町村内ニ滿六ヶ月以上在籍現住ノ戸主ニ限ルモノトス
但前條ノ第一第二第三ノ各款中ニ觸ル、モノハ撰舉人タルヲ得

ス

第四條 戸長公撰セントスルキハ郡長ハ少クモ十日前ニ開票ノ日時
ヲ期定シテ其町村役場ニ達スヘシ

第五條 町村役場ニ於テハ郡長ノ達ヲ受ケ直ニ之ヲ其町村内ヘ告知
スヘシ

第六條 撰舉會ハ町村役場ニ於テ之ヲ爲シ又ハ其町村役場外ニ於テ
之ヲ爲スヲ得

第七條 撰舉ノ投票ハ自己及被撰舉人ノ住所姓名ヲ記シ捺印封緘シ
テ開票ノ日時迄ニ撰舉會場ヘ差出スヘシ

但投票ヲ差出スハ代人ニ托スルモ妨ナシ又開會ノ前投票スルモ
ノハ其町村役場ヘ出スヲ得

第八條 開票ノ日ニ至レハ郡長又ハ其代理者ハ撰舉會ヘ出張シ投票
ノ數ヲ調査シテ開票スヘシ此場合ニ於テ投票者ハ立會スルヲ得

第九條 郡長又ハ其代理者ハ開票終ルノ后撰舉被撰舉名簿ト第二條
第三條トニ照シテ之ヲ調査シ不適當ノ者ハ之ヲ除キ其他投票多數
ノモノヲ以テ當撰入トシ同數ナレハ年長ヲ取り同年ナレハ籤ヲ以
テ之ヲ定ム

但開票終ルノ後其投票ハ郡役処ニ保存シ置シモノトス

第十條 撰舉權ヲ有スルモノ過半數官撰ヲ希望スルキハ郡役処ヲ經
テ縣廳ヘ願出テ縣令直ニ撰任スルモノトス若シ官撰公撰ノ希望者
同數ナルキハ縣令ノ裁定ニ任スヘシ

但官撰戸長任定ノ後公撰戸長ヲ置カント欲スルキモ亦本條ニ準
シ過半數ノ希望者ヲ得テ出願スヘシ

第十一條 公撰戸長ノ任期ハ此公撰法發令ノ月ヨリ滿三年毎ニ改撰
スヘシ其任期内ニ任免アルキハ新任戸長ヘ前任戸長ノ任期ヲ繼續
スルモノトス

但改撰ノ時ニ騰リ前任者ヲ再撰スルモ妨ナシ

第十二條 官撰戸長ハ別ニ任期ナキモムトス

○乙第百十四号 明治十五年 郡役所 町村役場 町村立學校
自今郡長ノ監督ニ屬スル戸長 町村立學校職員 學務委員 衛生委員 等職

務上ニ關スル諸申牒ハ所管郡役所ヲ經テ可差出此旨相達候事

但其指令ヲ交付スルモ亦所管郡役所ヲ經由スヘシ

○甲第百六十三号 明治十五年
十二月廿六日

本年甲第百六十二号ヲ以テ戸長公撰法布達候処在來ノ戸長ハ別ニ改
撰ニ及ハズ候條本月ヨリ該布達第十一條ノ期限ニ至リ改撰候義ト心
得ヘシ此旨布達候事

十五年丙
第五百六
十七号參
照

十三年丙
第四百四
十八号并
九十八号
参照

○丙第五百六十七号 明治十五年 十二月廿六日 郡役處
今般乙第百十四号ヲ以相達候諸申牒取扱之手續左之通可相心得此旨
相達候事

一戸長學校職員學務委員衛生委員等ヨリ進達スル申牒ハ該書面ノ郵
外ニ左ノ雛形ノ如キ月日印ヲ捺シ郡長之ニ檢印シテ差出スヘシ

寸法

何々郡長 ○明治何年 何月何日 經由

一右申牒ニ對シ異見アルキハ別紙ニ事由ヲ具シ副申スヘシ

會議之部

○甲第百廿五号 明治十三年 九月十三日

縣會議員第二度撰舉員數并退任者及補欠員トモ別紙之通候條本年第
十五號公布府縣會規則ニ依リ來ル十月十日限撰舉會可相開會旨布達
候事

但投票期日撰舉會場等ハ郡長ヨリ可相達候條此旨可相心得事

郡名	初度撰舉員數	退任者員數	第二度撰舉員數	新ニ撰舉スヘキ員數	補欠員トシテ撰舉スヘキ員數
山本	八	二	五	三	八
南秋田	八	二	五	二	八
由利	八	二	五	三	八
仙北	八	一	五	二	八
平鹿	八	二	五	三	八

會議之部

雄勝	四	八	二	八	三	八
北秋田	四	八	二	八	三	八
鹿角	二	八	一	八	二	八
河邊	二	八	一	八	二	八

○丙第四百四十八号 明治十三年九月十三日

郡役所

縣會議員ノ儀ニ付本年甲第百廿五号ノ通布達候ニ付投票期日及會場等ノ儀ハ少シモ十五日日前郡内へ公告シ投票用紙ヲモ豫シメ撰舉人へ渡方取計其他都テ本年第十五号公布府縣會規則之通可相心得且當撰者姓名ハ左ノ書式ニ依ヒ無遲滯届出候様可致此旨相達候事

縣會議員當撰者届

何郡何町何番地 士族 平民 何ノ誰何々

投票何点

姓名

何年何月何日生

全

全

全

右者當郡縣會議員當撰相成候ニ付即當撰狀相渡候條此段及御届候也

年月日

何郡長何ノ某

秋田縣令宛

○丙第四百九十八号 明治十三年十月五日

郡役所

縣會議員第二度撰舉之儀ニ付本年甲第百二十五号及丙第四百四十八号ヲ以相達置候処今般別紙之通被相達候ニ付右撰舉會之節各郡相當人員ノ外辭選者補欠ノ爲メ別ニ數名以下 五名 副選候様可致此旨相達候事

會議之部

但投票多數ナル者順次其欠ニ代ラシムル儀ト相心得ヘシ

別紙

府縣會規則ノ儀ニ付左ノ二件爲心得相違候事

明治十三年九月廿八日

太政大臣

一議員選舉ノ際郡區相當人員ノ外辭選者補欠ノクメ別ニ數名以下

ヲ副選セシメ置シモ妨ケナシ

一議長副議長共欠席スルキハ議員中ニ於テ臨時假議長ヲ公選シ其日ノ會議ヲ開クモ妨ケナシ

○乙第九十三号 明治十三年十月九日

郡役所戸長役場

町村會規則及施行之儀以來左之通可相心得此旨相違候事

但是迄聞届置候規則ハ更ニ左ノ手續ヲ履行スルニ及ハスト雖モ自ラ抵觸ノ廉ハ改正候儀ト相心得ベシ

十五年乙
第八十一号
参照

一町村會ノ規則ヲ設ケントスルキハ戸長ニ於テ該町村ノ申合ヲ取リ又改正ヲ要セントスルトキハ該會ノ決議ヲ取リ之ヲ草製シ郡長ヲ經由シテ本廳へ申稟スヘシ

十五年乙
七十八号
ニテ削除
アリ

一數町村聯合會ノ規則ハ前項ノ手續ヲ以テ聯合町村戸長連署スヘシ但水利土功ノ爲メ其關係アル人民集會ノ規則モ本文ニ同シ

一前項ノ會議數郡町村ニ跨ルモノハ戸長ニ於テ該町村ノ申合又ハ町村會ノ決議ヲ取ルコト第一項ノ如クシテ該郡長へ差出シ其規則ハ數郡長協議ノ上之レヲ草製シ連署ノ上本廳へ申稟スベシ

一第二項ノ評決ハ戸長ニ於テ施行スルト郡長ニ於テ施行スルトハ其聯合町村ノ便宜ニ從ヒ之ヲ定メ該會規則ニ記載ス可ク第三項ノ評決ハ數郡長協議ノ上之ヲ施行スヘシ協議整ハサルキハ本廳ノ裁決ヲ受ク可シ

但其會議々案ハ其施行スル郡長又ハ戸長ニ於テ之ヲ發ス可シ

會議之部

同第五項
第五項
除

十五年乙
第七十八号
ニテ改

十五年乙
百十七号
ニテ改正
アリ

十五年乙
七十八号
ニテ删除
アリ

一 町村會聯合町村會ニ係ル施行ニ於テ評決ノ上ハ縣令郡長ノ指揮ヲ
竣ツテ施行スヘキモノ、外ハ所管郡役所ニ報告スヘシ郡長ニ於テ
ハ之ヲ調査シ不適當ト認ムル事件アルキハ意見ヲ附シ縣令ニ具申
スヘシ

一 第一項第二項戸長ヨリ郡長ヲ經由スルモノハ郡長ニ於テ其規則ノ
當否又ハ評決ノ適否詳明副申スヘシ

○乙第百九号 明治十三年
十二月廿七日

郡役所町村役場

組合町村會ノ義ハ該規則ノ異同ニ拘ラス開設ノ場所ヲ問ハス毎町村
殊別ニ開會可致義ト可相心得此旨相達候事

但是迄組合町村ニシテ同一ノ規則ヲ設ケ伺出ノ上裁定候分モ本
文ノ通相心得ヘシ

○乙第百十号 明治十三年
十二月廿八日

郡役所町村役場

本年乙第四十二号達相廢シ候條自今郡彼所ニ於テ撰舉人被撰舉人ト
モ無波異同ヲ加除シ爾後撰舉會ノ用ニ充候様可致此旨相達候事

○甲第五十五号 明治十四年
四月五日

昨明治十三年第四十九号公布ニ依リ常置委員員數及月手當等今般臨
時縣會ニ於テ議決ノ上左之ニ相定候條此旨布達候事

一 常置委員ハ五人ヲ以テ定員トス

一 常置委員補欠ノ爲メ定員ノ外別ニ三名豫備員ヲ撰ニ置クモノトス

但豫備員ハ常置委員ノ改撰アル毎ニ之ヲ改撰ス

一 常置委員ノ月手當ハ一人金四拾圓ヲ給ス

一 常置委員月手當支給方ハ一月ヲ前後ニ分テ新任十五日前ニ在ル者
ハ全額十六日後ハ其半額ヲ給ス退職十五日前ニ在ル者ハ半額十六

十四年甲
第七十一号
追加ニテ

會議之部

五十四

同上

日後ハ其全額ヲ給ス
一常置委員疾病又ハ事故等ニテ欠席スル者ハ二ヶ月ノ間月手當ヲ給
シ其後ハ給セサルヘシ但其計算方法十五日前ハ下半月ヨリ之ヲ算
シ十六日後ハ翌月ヨリ之ヲ算スヘシ
一常置委員ノ旅費ハ左表之通其支給方ハ一般ノ定則ニ依ル

往復旅費

金三圓八拾錢

○甲第七十七号 明治十四年 五月十六日
明治十三年甲第七十二号布達縣會議員旅費及書記給料旅費支給方來
ル十四年度ヨリ左之通改正候條此旨布達候事
第一條 議長副議長及ヒ議員ノ旅費滞在日當并ニ壹里未滿ヨリ參會

十五年甲
第五百十
号ヲテ
删除ス
アリ

スルモノ辦當料ハ別表ノ通支給スヘシ

第二條 旅費日當支給方ハ一般ノ旅費定則ニ依ル

別表

議員旅費滞在日當	金 貳 圓 金 壹 圓
議員弁當料	金 三 十 錢

參照十四年甲第五百十号達摘要

書記給料ハ雇入中一日金七圓以内ヲ以テ議長ニ於テ適宜施行致
スヘシ

○乙第四十一号 明治十四年 五月三十一日

郡役所町村役場

會議之部

今般内務省達ニヨリ縣會議員撰舉被撰舉權ヲ有スル人員及町村協議
 費テ議定シタル經費ヲ云フトモ取調之筋有之候條各役場ニ於テ別紙
 甲乙号離形ニ照準取調毎年十一月十五日限リ該郡役所差ス出ス可シ
 郡役所ニ於テハ丙丁号離形ニヨリ更ニ之ヲ調製シ同月廿五日限リ該
 地差立本廳ニ差出可シ此旨相達候事

但人員ハ其年三月調協議費ハ前年度ノ分ト心得ヘシ

甲号

縣會撰舉權ヲ有スル者取調

何郡何村本籍ノ者人口總計若干ノ内

一撰舉權ヲ有スル者 何名 (被撰舉權ヲ有スル者モ此人員中ニ
 算入ス但毎年三月ノ調査ニヨルヘシ)

但總人口何分ノ幾ハシニ當ル

内 華士族何名 農何名 (農工商ト指名シ難キ營業者
 内 工何名 商何名 (農工商ノ内ニ算入ス可シ)

何郡何村本籍ノ者人口總計若干ノ内

一被撰舉權ヲ有スル者 何名

但總人口何分ノ幾ハシニ當ル

内 華士族何名 農何名 (農工商等指名シ難キ營業者
 内 工何名 商何名 (農工商ノ内ニ算入スヘシ)

右ハ明治十四年本縣乙第四十一号御達ニヨリ本年三月本村ニ於テ撰
 舉被撰舉權ヲ有スル者取調前書之通ニ有之候此段御届申上候也

年月日

何郡何村

戸長何之誰印

何郡長何ノ誰殿

乙号

何郡何村協議費取調

一金若干

内 譯

金

治水費

十五年乙
 第四号ニ
 改正アリ

金	道路修築費
金	橋梁修築費
金	水利土功會 ヲ決議ノ分
金	内課
金	治水費
金	道路修築費
金	橋梁修築費
金	衛生及病院費
金	教育費
金	戸長役場新築修繕又ハ借家料
金	戸長役場諸費
金	教育費

金 何々費

右者明治十四年本縣乙第四十一号御達ニヨリ昨何年度本村協議費取
調前書之通ニ有之候此段御届申上候也

年月日 何郡何村 戸長何之誰印

何郡長何ノ誰殿

丙号

縣會撰舉被撰舉權ヲ有スル者取調

郡内本籍ノ者人口總計若干ノ内

一撰舉權ヲ有スル者 何名 (被撰舉權ヲ有スル者モ此八員中ヨリ
入メ但毎季三月ノ調査ニコルヘシ)

但總人口何分ノ幾ハシニ當ル

内 華士族何名 農何名 (農工商ト指名シ難キ營業ノ
工 何名 商何名 者ハ商ノ内ニ算入シヘシ)

郡内本籍ノ者人口總計若干ノ内

會議之部

十五年乙
第四号ニ
テ改正ア
リ

一被撰舉權ヲ有スル者 何名

但總人口何分ノ幾ハソニ當ル

内 華士族 何名 農 何名

（農工商ノ階級ニ據テ入ル）

右ハ明治十四年本縣乙第四十一号御達ニヨリ本年三月本郡内ニ於テ撰舉被撰舉權ヲ有スル者取調前書之通ニ有之候此段上申候也

年月日

何郡長何之誰印

秋田縣令宛

丁

何郡町村協議費取調書

一金若干

内譯

金

治水費
道路修築費

金

橋梁修築費

内

水利土功會
テ決議ノ分

金

内譯

治水費

金

道路修築費

金

橋梁修築費

金

衛生及病院費

金

教育費

金

戸長役場新築修繕又ハ借家料

金

戸長役場諸費

金

教育費

金

何々費

會議之部

右ハ明治十四年本縣乙第四十一號御達ニヨリ昨何年度本郡内協議費
取調前書之通りニ有之候此段上申候他

年月日

何郡長何ノ誰印

秋田縣令宛

○乙第十五号 明治十五年
二月十日

郡役處町村役場學務委員

學事ニ係ル議案ヲ町村會ニ付シ及其評決ヲ認可不認可ナル等ハ總テ
學務委員協議ノ上町村會法ニ據リ戶長ニ於テ之ヲ取扱ヘシ尤モ經費
ノ賦課徴収ヲ除キ其他ノ事業ヲ實施スルハ戶長協議ノ上教育令ニ據
リ學務委員ニ於テ取扱フヘキ義ト心得ヘシ此旨相達候事

○乙第二十六號 明治十五年
三月六日

郡役處町村役場

從來町村會規則經伺ノ都度議員撰舉被撰舉權ヲ有セサル種類中懲役

一年以上及國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者ノ一項ハ
夫々裁定シ來候處左ノ項目ニ照準更正スヘク及今后伺出ノ分モ之レ
ニ準據取調フヘシ此旨相達候事

一舊法ニ依リ一年以上懲役及國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期後五年
ヲ經サル者新法ニ依リ公權ヲ剝奪及停止セラレタル者又ハ一年以
上輕重禁錮ノ刑ニ處セラレ主刑滿期後五年ヲ經サル者

○丙第二百九十五号 明治十五年
七月五日

郡役所

自今縣會議員當撰者人名開申之節ハ撰學會ノ公告書ヲ發セシ日及會
日記載可致此旨相達候事

○乙第八拾壹號 明治十五年
八月廿八日

郡役所町村役場學務委員

學事ニ關スル町村會ノ議案及其實施等取扱方之義ニ付本年乙第十五

十五年乙
第八十一
號參照

十五年乙
第七十八

會議之部

五十九

右ハ明治十四年本縣乙第四十一號御達ニヨリ昨何年度本郡内協議費
取調前番之通りニ有之候此段上申候他

年月日

何郡長何ノ誰印

秋田縣令宛

○乙第十五号 明治十五年
二月十日

郡役處町村役場學務委員

學事ニ係ル議案ヲ町村會ニ付シ及其評決ヲ認可不認可スル等ハ總テ
學務委員協議ノ上町村會法ニ據リ戸長ニ於テ之ヲ取扱ヘシ尤モ經費
ノ賦課徴収ヲ除キ其他ノ事業ヲ實施スルハ戸長協議ノ上教育令ニ據
リ學務委員ニ於テ取扱フヘキ義ト心得ヘシ此旨相達候事

○乙第二十六號 明治十五年
三月六日

郡役處町村役場

從來町村會規則經伺ノ都度議員撰舉被撰舉權ヲ有セサル種類中懲役

一年以上及國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者ノ一項ハ
夫々裁定シ來候處左ノ項目ニ照準更正スヘシ及今后伺出ノ分モ之レ
ニ準據取調フヘシ此旨相達候事

一舊法ニ依リ一年以上懲役及國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期後五年
ヲ經サル者新法ニ依リ公權ヲ剝奪及停止セラレタル者又ハ一年以
上輕重禁錮ノ刑ニ處セラレ主刑滿期後五年ヲ經サル者

○丙第二百九十五号 明治十五年
七月五日

郡役所

自今縣會議員當撰者人名開申之節ハ撰學會ノ公告書ヲ發セシ日及會
日記載可致此旨相達候事

○乙第八拾壹號 明治十五年
八月廿八日

郡役所町村役場學務委員

學事ニ關スル町村會ノ議案及其實施等取扱方之義ニ付本年乙第十五

十五年乙
第八十一
號參照

十五年乙
第七十八

會議之前

五十九

号ハ十三
年乙第九
十三号達
中改正削
除ニ止ル
ヲ以不掲

号ヲ以テ相達候處數町村聯合會ニ係ルモノハ本年乙第七十八号達之
通リ可相心得此旨相達候事

○甲第四百四十六號 明治十五年
十月廿五日

本縣議員就職交替手續縣會ノ決議ニ依リ左ノ通相定候條此旨布達候
事

議員就職交替手續

府縣會規則第廿一條ニ依リ議員ヲ改撰スルキハ滿期退任者及后任議
員ハ該年通常縣會畢ルノ後直チニ就職交替スルモノトス

但常置委員就職交替ノ手續モ本文ノ例ニ因ル

郡區ノ部

○第百六十二番 明治八年
五月五日

宿驛廢合并村落合併之儀自今人民格別便利ヲ得候儀有之歟或ハ實際
不得已事故有之外ハ以來廢合及改稱不相成候條此旨觸示候事

○甲第三十九號 明治十二年
二月廿七日

管内各町村事務處ノ名義ヲ改メ自今町村役場ト稱シ候條此旨布達候
事

戶籍之部

○布達第四百八十七番 明治六年九月

士族卒病氣危篤ニ至リ嗣子無之且養子不見當節ハ死去後五十日以内相應ノ養子相撰相續願出不苦旨兼テ相達置候処先般御布告之次第有之候條自今右様之節ハ婦女子之相續可願出尤其後夫ヲ迎ヒ候カ又ハ養子致候ハ、直ニ右夫又ハ養子ニ家相續可願出候事

但婦女子ニテ相續可致者無之節ハ重立候親戚之内養子致候迄代理致候姓名可届出候事

○布達第七百七拾四番 明治六年十二月廿三日

管下四民一統戶主者左ノ書式ノ如ク實印々鑑相認共小區扱所へ早々可差出候依テハ以來改印代替リ又者他區へ移住ノ節者共都度無遅滞其扱所へ可届出此旨布令候事

八年乙第
廿九番參
照

印鑑書式

用紙美濃紙堅九寸横三寸

秋田縣管下第何大區何小區某國某郡某村町
何番屋布居住借宅カ借店カ族職業

印鑑○

何之誰

年號干支月日家督

改印○

舊印此へ押スヘシ
何之誰○

年號干支月日

○觸第八十番 明治八年
二月十四日

從來管内ニ於テ他區他村等へ職業ノヲメ寄留スル者ヲ以別居ト相唱
來候処詮議之次第有之候條自今寄留ト可相心得候事

但寄留表中ニハ取調ニ不及候事

一隱居其他家族之者別莊或ハ所持地等へ戸籍ヲ分裂シ居住スル者ヲ

別居ト可相心得候事

右之通觸示候事

○觸第四百七十七番 明治八年
三月十日

士族平民ニ不拘本家分家親戚及ヒ男女兩戸主結婚之外家事差支又ハ
朋友之情儀等ヲ以合家之儀者不相成候條此旨觸示候事

○乙第二十九番 明治八年
三月十三日

各區正副區長

四民一統戸主印鑑帳製置之儀ニ付一昨六年十二月廿三日滄外ヲ以相
達置候所實印紛失新印彫刻又ハ改印代替リ等届出候節舊印鑑徒ニ除
棄候向モ有之哉ニ相聞右者最初達面ニ反シ不都合之至ニ候條己來注
意可致候尤自今現在戸主所用之印鑑ハ印鑑帳ニ貼附シ渾テ舊印鑑ハ
別ニ舊印鑑帳ヲ相製シ印鑑帳同様張置可申此旨相達候事

但一昨六年十二月廿三日滄外達面本文ニ矛盾セサル儀ハ其儘存
置ト可心得事

○觸第六百四拾五番 明治八年
十二月十九日

凡平民幼少ニテ家督致候節親戚又ハ他人ニテ相當之者相撰後見爲致
其旨扱所ニ相届可申各扱所ニ於テハ兼テ製置候印鑑簿へ粘附可致此
旨觸示候事

○觸第六百七十番 明治八年 十二月廿六日

婚姻又ハ養子養女ノ取組若クハ其離婚離縁等都テ送入籍スヘキ分ハ
縱令相對熟談ノ上タリニ雙方ノ戸籍ニ登記セサル内ハ其効ナギ者ト
看做スヘク旨太政官御達之趣モ有之候條右等ノ届方等閑ノ処業無之
様可致若違悖ノ者有之ニ於テハ身上ニ關涉シ他日不都合ヲ醸成スル
基ニ付心得違無之様厚ク可致注意此旨觸示候事

○乙第九番 明治九年 六月二十九日

各區正副區戶長

實子アル者養子ヲ以テ相續人トシ子女アルノ寡婦夫ヲ迎ヘテ前夫ノ
跡相續人ト定ムル等ハ一般難差許定規ニ候得共華士族ヲ除ノ外現實
極窮或ハ老病等ニテ實子孫アリト雖モ幼少ナルカ又ハ有子ノ寡婦ヲ
リモ極貧或ハ其子女幼少且後見スヘキ者モ無之カノ場合ニテ親族協
議ヲ以願出候節不得止事情ニ係ル者ハ詮議ノ上可差許ニ付篤ト取亂

其實況ヲ與書或ハ添書ニ詳記シ其都度可爲願出此段相違候事

○乙第二百廿四番 明治九年 十二月廿七日

各區々戶長

甲區ヨリ送籍ノ者乙區入籍濟之証受領セサル内除籍ノ向キモ有之候
處問コハ本人其送券ヲ荏苒懷中シ乙區へ不差出終ニ無籍之姿ニ相成
不都合之至ニ候條自今送籍ノ者ハ必ス乙區ニ於テ入籍濟之證ヲ可差
送甲區ニ於テハ右證書ヲ受取候上除籍可致此旨相違候事

○乙第六十二番 明治十年 四月十一日

各區正副區戶長

生死送入籍奇留等總テ戸籍ノ増減加除ニ關スル事件ハ是迄各小區ニ
於テ一ヶ月分宛取纏届出來候處詮議ノ筋有之自今右月纏加除ニ關ス
ル届書ニ限リ差出ニ不及候條其書面ハ總テ各小區宛ニテ爲差出扱所
於テ製置候戸籍帳増減加除ノ儀ハ一層精密取調后来錯雜不致様深ク

注意可致尙退テ第一課ヨリ各區戸籍帳調査候儀モ可有之候條此旨相達候事

但本文之趣區内一般ニ可及通達候事

○乙第百五十四番 明治十年 九月廿一日 區戸長

男女ノ戸主其身實子養子家女他女若其家名ヲ廢シ他へ入夫縁付或ハクハ相續人タルヲ問ハス養子女トナリ又ハ實家ニ復籍等情願ニ依リ可及詮議候條右等ノ事情有之者ハ其時々可爲致出願此段相達候事

○觸第三百三番 明治十年 十月二日

戸籍番号之儀ハ從來一小區毎押番ヲ用來候處今般小區内ニ各事務所ヲ置候ニ付自今一町村毎其屋敷地ニ就キ順次番号ヲ附シ戸籍標札番号等モ右ニ相改可申此旨觸示候事

○乙第二百十一番 明治十年 十二月廿七日 區戸長

失踪届及ヒ尋方模様等其都度本廳へ相届候處自今総テ兵籍ニ在ル者ハ勿論其他兵役ヲ嫌ヒ或ハ官廳ノ呼出ヲ受ケ脱走スル者等ヲ除クノ外各事務所限リ取扱可申此旨相達候事

別紙

但取扱順序別紙之通可相心得候事

第一條 凡テ逃亡者有之節ハ其戸主ヨリ速ニ爲届出豫テ備置シ脱走人名簿へ登記スヘシ

第二條 但戸主逃亡ノ節ハ其親戚ヨリ爲届出本條手續ヲ爲スヘシ
人名簿へ記載方ハ住所番地ヲ姓名ノ肩書ニシ逃亡年月日ヲ額書ニスヘシ

第三條 逃亡ノ月ヨリ七ヶ月目ニ至リ行衛不相知キハ搜索ノ模様爲届出七ヶ月目ノ其月ヨリ尙七ヶ月ニ至リ行衛知レサルキハ前同様

爲届出最初逃亡之際届出ヲ初度届トシ漸次七ケ度目迄爲相届ヘシ
第四條 七ケ度目届ハ即チ逃亡ノ月ヨリ三十六ケ月ヲ過テ三十七ケ
月ニ當ルヲ以其届ヘ永尋申付候旨朱書シ年月日調印之上達スヘシ
第五條 初度届ヨリ永尋申付候迄届出ノ都度人名簿願書ニ登記シ置
クヘシ

第六條 逃亡者滿八十一年以上ニ相成候ハ、戶籍帳ヲ除去スヘシ
右之通取扱可申事

○乙第百五十二番 明治十一年 區戶長
九月廿四日
士族之輩遺跡隱居養子分家等之節從來出願致候處自今尋常之遺跡隱
居養子分家ハ不及出願候條該事務所ヘ爲届出一ケ月纏ヲ以テ姓名調
可差出此段相違候事

第十三年甲
第七百五十九號
第七年乙
第九十七號
照

○甲第三十七号 明治十二年 二月廿七日
每年開拓使函館地方漁業之節ニ至リ各縣下ヨリ出稼トシテ多人數入
込間ニハ身元儘ナラサル者モ有之各所之漁場ニ備ル、ノ際如何ノ舉
動モ有之ニ付自今同地ニ於テ右取締ノ方法相立候趣申越候就テハ右
地方へ出稼ノ者ハ其身元儘ナル証據トスヘキモノ携帶不致候テハ到
着ノ上不都合ニテ空ク歸縣候様ノ義モ可有之ニ付縣届ヘ居住地事
務處ノ証印ヲ受テ携帶候様可致此旨布達候事
○乙第二十三号 明治十二年 二月廿五日 町村事務所
士族貫籍替之儀ハ是迄本縣へ出願シ來リ候處自今出願ニ不及候條事
務所限リ可爲届出此旨相違候事

○甲第五十九号 明治十二年 四月七日
昨明治十一年太政官第三十六号本縣第三百六十二番ヲ以觸示候非役

第十四年甲
第七百七號

戶籍之部

帶勳並有位之輩三太節拜賀被仰付候ニ付テハ左之條款ニ照シ當人或

ハ相續人ヨリ直ニ式部寮へ可届出此旨布達候事

一非役有位及ヒ帶勳ノ輩即今之屬籍並住所早々届出ツヘシ

一同上轉居或ハ管轄替改姓名又ハ他管下へ寄留本管へ歸着等之節其
都度届出ツヘシ

一同上死亡ノ節ハ子孫或ハ親戚ノ者ヨリ届出ツヘシ

○甲第七十四号 明治十二年
四月廿四日

戸主退身復籍願之儀ハ是迄養家實家ノ親族連署突合出願致來候處自
今各書ニ不及候條右願書之儀ハ當主並實家ノ戸主双方ノ親族二名連
署其當主處管ノ郡役處へ可申出此旨布達候事

○乙第十号 明治十三年
一月廿六日

郡役所町村役場

加達八十
アニ十四
リテ六年
退號乙

計 總		表 籍 戶 調 日 一 月 一 年 何 治 明 郡 何 國 何																	
數 村	數 町	村 町 名																	
		女 男		女 男		女 男		女 男		女 男		女 男		女 男		女 男			
		別 類		華 族		士 族		平 民		棄 兒 合 計		七 年 以 上		七 年 以 下		合 計		失 踪 出 生	
		戶 主	家 族	戶 主	家 族	戶 主	家 族	戶 主	家 族	未 滿	以 上	未 滿	以 上	未 滿	以 上	未 滿	以 上		

備 考

- 一 棄兒ノ目ハ滿十三年以下ニテ人ノ養子女トナラサルモノ、ミチ掲クヘシ故ニ假令養育米ヲ仰クモノト雖族ノ部ニ掲クヘシ
- 一 失踪ノ目ハ毎年一月一日現ニ失踪シ其踪跡ノ知レサルモノヲ掲クヘシ
- 一 出生死亡除籍ノ目ハ前年一月一日ヨリ全年十二月三十一日マテノモノヲ掲クヘシ
- 一 寄留人ノ目ハ他府縣ヨリ管内ニ管內ヨリ他府縣へ寄留スルモノヲ掲クヘシ
- 一 除籍ノ目ハ失踪者滿八十年ニ至リ除籍トナリタルモノヲ掲クヘシ
- 一 戶數ノ目ハ家持借家ヲ問ハズ總戶數ヲ掲クヘシ

是迄毎年差出來候一月一日調戶籍表離形ヲ廢止更ニ別表之通リ相定候條本年一月一日分ヨリ右表目ニ準據候議ト可相心得尤各役場ニ於テハ年々一月十五日限リ之ヲ調整シ該郡役所ニ差出スヘク又郡役所ニ於テハ一郡内更ニ製表ノ上同三十日限本廳ニ可差出此旨相達候事但書一時ニ係ルヲ以テ刪除

○甲第九十号 明治十三年七月十二日

毎戸標札之儀ニ付明治六年七月第三百九十四番ヲ以相達置候処其後
區制廢止郡制施行等ニ付テハ自然記載方可引直等之所其儘差置或ハ
掲標不致向モ有之不便少ナカラサルニ付今般更ニ別紙雛形ニ照準本
月三十一日限り掲標可致此旨布達候事

但以後移轉等ノ節モ無遲滞掲標可致候事

雛形

郡町(村)番地或ハ番地同居(借家)(借地)(内借宅)
族職業
何ノ誰

豎曲尺八寸
横同 四寸

他府縣ヨリ寄留ノモノ

郡町(村)番地寄留或ハ(同上)寄留
某縣族職業
何ノ誰

寺院ノ分

郡町(村)番地
某宗某寺(院)
何ノ誰

戸籍之部

六十七

神社ノ分

郡町(村)番地

縣(鄉)村社
某

社

○甲第百五十七号 明治十三年十一月六日

北海道送籍移住者渡航之儀ハ昨十二年開拓使甲第四号ヲ以テ布達モ有之候処往々志願人直ニ乘般便宜ノ地ニ出テ至急回船ノ儀願出候向モ有之右ハ同使ニ於テ回船都合モ有之処前件ノ如クコテハ不都合ノモノヲ移住者於テモ空ノ船待等無益ノ失費ヲ要スル儀ニ付今後該出願ノ者ハ其事由ヲ詳記管轄郡役処ニ申出添翰ヲ得テ該使へ願書差出彌回船時日ノ報知ヲ得然ル後乘船スヘキケ所へ立越スヘシ旨今般

同使ヨリ照會有之候條此旨布達候事

○甲第三十六号 明治十四年二月二十五日

開拓使函館地方雇人受宿規則左之通ニ候旨今般函館支廳ヨリ通牒有之候條爲心得此旨布達候事

但該地方へ出稼ノ者証據攜帶之儀ハ明治十二年甲第三十七号布達之通リ

雇人請宿規則

第一條 雇人受宿營業セント欲スル者ハ組合取締及戸長ノ加印ヲ以テ(結社營業ノモノハ社則等ヲ添へ戸長及ヒ)郡區役処へ願出鑑札ヲ受ケ手数料トシテ金貳拾錢相納ムヘシ

但廢業ノ節ハ函館支廳又ハ郡區役処へ鑑札返納スヘシ

第二條 請宿營業者ハ左ノ雛形ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

戸籍之部

鑑札番号
 ○ 雇人請宿
 何社
 又ハ何ノ誰
 堅三尺
 巾七寸

第三條 請宿ハ被雇人一切ノ保證ヲナス者ナレハ結社請宿營業ノ者ハ株金ノ外ニ七百圓相當ノ不動產(土地家屋等ノ運搬スヘガラザルモノヲ云)ヲ備置獨立營業者ハ現地在住ノ者ニシテ函館ハ金三百圓以上福山江差ハ金貳百圓以上其他ハ金百圓以上ノ不動產ヲ有シタル者ニ限ルヘシ

但不動產ヲ所持セザル者ハ公債証券又ハ銀行等ノ株券ヲ以テ不動產ニ換フルヲ得ヘシ

第四條 鑑札ヲ受ケス又ハ獨立營業者ハ組合ニ入ラスシテ營業スルヲ許サズ

第五條 結社營業ノ者ハ株主等ノ増減ヲ其時々届ケ出ヘシ

第六條 當管内各地ヘ分社ヲ設クルルハ本社設立願濟ノ証ヲ添ヘ其

他ノ郡區役地(他管下ニ於テ本業結社願濟ノ者ハ)願出許可ヲ受クヘシ
(本則第一條ノ手續ヲナスヘシ)

第七條 營業免許鑑札ヲ失却毀損スルカ又ハ代替改姓名轉居セントキハ其旨申出再度又ハ書換ヲ請ヘシ

但手數料トシテ金三十錢相納ムヘシ

第八條 函館福山江差市街ハ獨立營業ヲナス者ノ爲メ適宜組合ヲ設ケ各取締一名副取締二名乃至四名(各村ハ此限)ヲ置キ組内取締ヲ爲スヘシ

第九條 雇主被雇人ハ結約ノ際左ノ諸項ハ特ニ注意スヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ請宿ノ者立會約條證書ニ記名調印シテ其確實ヲ表スヘシ

- 一 雇期限及給金高
- 一 給金授受ノ期日
- 一 被雇人疾病死亡或ハ逃亡セシキノ始末

一臨時解雇ノ節処置 一其他緊要ト認ル條項

第十條 被雇人ヲラント欲スル者若犯罪其他不審ノ所業アルヲ認ル
キハ警察官吏へ密告スベシ

第十一條 雇主被雇人ノ本籍姓名年齢ヲ帳簿ニ記載シ置キ警察上取
調ノ用ニ供スベシ

第十二條 請宿世話料ハ最初被雇人壹期給金高ノ壹割ヨリ多カラザ
ル金額ヲ雇主被雇人双方ヨリニ金額ノ半數宛申受シベシ

第十三條 定メタル世話料ノ外種々ノ名義ヲ以テ雇主被雇人ヨリ金
錢ヲ貢リ又ハ被雇人ノ腹胎ヲ押隠シテ口入シ或ハ雇人口入ニ事寄
セ止宿セシムル等ノ所業ヲ爲スヘカラズ

第十四條 被雇人給料ノ歳分ヲ前借ノ上逃亡シ雇主へ損失ヲ負ハシ
ムルキハ其前借金ハ請宿ノ者其報知ヲ得タル日ヨリ十五日以内ニ
必テス辨償スベシ

但違隔ノ地ニシテ期日内ニ辨償ノ途ナキハ何時ニテモ辨償
方差支ナキ様金員備へ置クベシ將テ廢業シタル後ト雖モ豫メ
口入シタル約條期限内ハ本條ノ通りタルヘシ

第十五條 請宿ハ被雇人受取ル所ノ前金ヲ(逃亡スルトキ)償ハシムル爲メ他
ノ被雇人ヲシテ共受ヲ爲サシム可カラズ

第十六條 組合規則ヲ私ニ取設ケ又ハ無謂出錢ヲ爲サシムベカラズ
若己ムヲ得サル事故アリ出錢ヲ爲サシムルキハ其事由ヲ郡區役處
へ申出差圖ヲ受クベシ郡區役處ヨリハ警察署又ハ警察分署へ報告
スベシ

○乙第四十八号 明治十四年
六月廿七日

郡役所町村役場

北海道へ送籍移住者渡航願之儀是迄東京開拓使出張所於テ取扱候分
ハ以來東京日本橋區箱崎町一番地物産取扱所ニ於テ取扱候旨今般同

使ヨリ申越候條此旨相達候事

○甲第百七号 明治十四年六月廿七日

非役有位帶勳之輩轉居并ニ死亡等之節届方之儀明治十二年四月甲第五十九号ヲ以及布達置候處往々無届ノ者有之不都合ニ付自今有位者及帶勳者ハ在役非役ニ不拘轉居改姓名及他管下へ寄留本管へ歸着ハ當人ヨリ直ニ式部寮へ死亡者ハ郡區長ニテ取調本廳ヲ經テ可届出旨今般宮内省ヨリ達越候條其時々無遺漏可相届此旨布達候事

○乙第七十二号 明治十四年十月十九日

郡役所町役場

戶籍送受證之儀ハ徵兵事務上尤モ關係ヲ來タシ候モノニ付自今使府縣へ轉籍ハ勿論管内送入籍共全戶ハ其戶籍寫相添單身或ハ家族ノ幾人ニ係ルキハ本人共ノ戶籍冒頭ニ登記アル事項ハ勿論其他徵兵ニ關

ルノ類ハ必ス送籍證へ記入シ且ツ全戶轉籍之者徵兵令改正後徵兵年齡以後ノ嗣子及ヒ養子嗣子或ハ相續人等ヲ廢シ他ニ出籍セシ者有之節ハ徵兵事務條例第一百五十七條及ヒ第百五十八條ノ趣モ有之候條該戶籍寫結尾ニ其姓名年齡廢嫡ノ事由年月日出籍先等詳細朱記シ送籍可取計此旨相達候事

○甲第百三十二号 明治十五年九月廿七日

戶籍上ニ關スル諸願書ハ自今戶籍帳寫へ戶長ノ捺印ヲ受ケ該願書へ相添可差出此旨布達候事

○乙第九拾七号 明治十五年十一月四日

郡役所町村役場

北海道へ移住志願者之義ニ付農商務卿ヨリ別紙之通被達候條右志願之節ハ不都合無之様可致此旨相達候事

号外

府 函館札根室
三縣ヲ除ク

北海道へ移住志願ノ者ハ先ツ移住スヘキ土地ノ形勢ヲ探査シ就業ノ
目的ヲ確立シ移住後一兩年間ハ衣食ノ有餘アル者ニ非レハ成業覺束
ナキ事ニ有之然ルニ渡航ノ際船待費用スラ差間該道着港ノ後愈衣食
ニ窮スル者不尠ニ相聞不都合候條以後ハ出願ノ節本人身元并目的
等篤ト取調渡航後前條ノ不都合無之様一層注意可爲致且又移住規則
不心得ヨリ願書差出後直ニ郷里ヲ出立又ハ相對チ以テ定規外ノ船チ
屈ヒ渡航ノ者モ往々有之候処經費上ノ都合ニヨリ許否ノ程モ難計義
ニ候條今後ハ移住許可乘船票下付以前郷里出發候義ハ勿論定規外ノ
船相雇候様ノ義無之様可取計此旨相達候事

農商務卿代理

參事院議長

明治十五年十月十一日

○丙号外 明治十五年
十二月九日

郡役處

今般第四十九号布告ヲ以テ行旅死亡人取扱規則假定候ニ付アハ從來
ノ無籍死亡人埋葬費表ヲ廢シ別紙表式ニ照準翌月十日限り進達可致
尤モ届出ヘキ事項無之向ハ其旨同期日迄ニ可申出此旨相達候事

但本年九月三十日以後ノ分ハ本達表式ニ依リ進達可致儀ト心得
ヘシ

明治 年 月 行旅死亡人埋葬表

町名	死狀		本籍不詳者	有籍者		計	追テ雜収 入ニ組込 ヘキ遺金
	男	女		男	女		
何町	病死	變死					
何町	病死	變死					
何町	病死	變死					
何村	病死	變死					
何村	病死	變死					
合計	變死	病死					
家元赤貧ニ シテ地方稅 支辨ノ金額 及其人員							

右取調上申候也

明治何年 月 日

何郡長姓名印

社寺之部

○觸第三百廿番 明治八年五月三十日

縣社以下祠官祠掌進退之儀自今氏子共歸依之者相撰氏子總代并同區內神官二名以上連署神道觸頭與印ヲ以可願出候此旨觸示候事

但氏子無之向ハ其地人民ヨリ本文同様之手續ヲ以可願出候事

○觸第四百七拾四番 明治八年八月廿四日

縣社鄉村社其他雜社ニ至ル迄祭祀之儀ハ各社奉務スル祠官祠掌ニテ關係可致ハ勿論ニ候処間々舊來之縁故杯ト唱ヘ擔當外ニ濫入シ祭典等執行候向モ有之哉ニ相聞甚不都合之事ニ候條以來祠官掌ニテ假令他ノ氏子共ヨリ依頼ヲ受ルト雖トモ各自擔當所外ノ神事ヘ決シテ關係不相成候又氏子共ニ於テモ他ノ氏神之神官ニ可依頼筋無之候條心得違無之様可致此旨觸示候事

但祈禱或ハ葬儀等ハ其氏神之神職ニ可依頼ハ適然ニ候得共他ニ別段信仰於有之ハ可任情願候事

○觸第五百八十番 明治八年十一月五日

社寺堂宇破壞修繕ノ爲メ境内樹木伐採出願ノ向ハ其事實無餘儀相聞候分ハ從來點檢之上聞届候処右者區區願出候節其都度官員派出爲致候而ハ冗費不撻候條自今每年四月九月兩度ニ官員派出檢査爲致候間出願之者ハ右期限前本品及ヒ目通周圍等詳細相認可申立此旨觸示候事

但天災火災等ニ罹リ須更モ難聞分ハ此限ニ非ス

○乙第四十三番 明治九年三月十五日

各區正副區戶長

招魂社祭日之儀是迄舊藩藩ニ於テ適宜相設ケ有之候得共詮議之次第有之今後左之通り祭日更定候條此段相違候事

十年乙第
廿番達
テ改正
アリ

十年乙第
廿番ニテ
改正アリテ

但有祭日ニ限リ本社近傍ニ於テ諸興行并辻店之類指出候儀勝手
タルヘシ候得共興行等ニ至リテハ豫テ成規之通可願出尤収稅差
免候事

秋田郡寺内村

招魂社

五月一日

由利郡本庄町

同

同月十日

同郡城内村

同

同月十五日

○乙第七十六番 明治九年五月十二日

各區正副區戸長

諸神社分社遙拜所建設出願之節必ス本社ノ承諾書相添永續方法相認
メ可差出之旨昨八年第七十四番ヲ以テ觸示候処今後遙拜所創建之向

ニ限リ本社承諾書不及爲相副候尤從前途拜所之名義ヲ以テ取設候内
本社祭神ヲ分祀シ其實全ク分社ニ異ナラザル向ハ更ニ取調繪圖面相
添各小區限リ取纏メ本月三十一日マテ可差出此旨相達候事

○乙第八十八番 明治九年五月二十六日

各區正副區戸長神道各宗觸頭

諸神社寺院ニ於テ古來ヨリ傳承ノ什物等取調方ノ儀明治六年太政官
第八十九号御達ノ次第モ有之処近來自儘ニ諸什器之類溢リニ賣却或
ハ抵償等ニ致候向キ有之哉ニ相聞得候ニ付今般該區戸長并神官氏子
立會詳細遂檢査ヲ取調之上帳簿相製シ什物帳ニハ社寶器祭典住職擅家
品蓄記類寄附帳ニハ何年何月何誰寄附田園反別建造物坪數諸器物ニ
至ルマテナ記載シ各姓名ヲ署シ連印致六月三十日マテ右帳簿縣廳ニ
指出シ又該社所ニモ藏シ置キ各職任免之節相取メ受渡可致此段相達
候事

○觸第九番 明治十年一月十二日

管下人民私邸内等ニ自祭スル神祠佛堂へ衆庶參拜爲致候向モ有之自然一般社寺同様之姿ニ相成不都合候條自今總テ參拜差停候尤其建物等更ニ信向人共有ノ筋ヲ以テ尙參拜ノ儀願出之者ハ永積方法并神官僧侶ノ受持等取調本月三十一日限其區扱所へ差出扱所ニ於テハ二月五日迄ニ區内取纏可差出此旨觸示候事

但從前願濟之分ト雖モ建物等一己私有ニ屬スル向ハ本文ニ準シ詳細取調更可申出事

○觸第廿番 明治十年一月十七日

管内寺院修繕其他寺用ノ爲メ一時不得已時機ニ至リ候際ニ限リ借財候者今後該寺所有ノ地所除稅地外建物及寄附物寺附什器等括當ニ書入候節ハ法類擅家協議ノ上擅家二名以上連署各本寺法類ノ承認ヲ受

ケ本寺ニ於テ右様ノ儀有之時ハ渾テ此手續ニ隨ヒ同宗内ニテ重立候
モノ二名以上承認ヲ受ケ而シテ前顯取計候儀不苦候條決シテ僧侶一
己ノ私借ト混淆無之様可致此旨爲心得觸示候事

○乙第百九番 明治十年七月六日

神道事務分局長各區區戸長

一昨八年十二月乙第百三十七番ヲ以神官給料及祭典費賦課方法相違
置候處本月ヨリ悉皆取消候條右給料並祭典費等ハ総テ氏子ノ協議ニ
可任此旨相達候事

○觸第百二十一番 明治十一年四月十七日

神宮大麻ノ儀是迄各區扱所ニ輸送夫々頒布方取計來候處今般内務省
ヨリ自今地方官ノ關係ニ不及其受不ハ專テ人民ノ自由ニ爲任候儀達
相成候條此旨爲心得觸示候事

○乙第七十三號 明治十二年七月三十日

郡役所町村役場

神社寺院明細帳之儀最前進達ノ分脱誤不少候條別紙書式ニ照準更ニ精密取調且境外遙拜所招魂社祖靈社明細帳モ調製可差出旨今般内務省ヨリ達相成候條町村役場ニ於テハ其部内社寺院ヲシテ本年六月三十日ノ現景ニヨリ取調サセ候上神社ハ神宮寺院ハ住職無職員ノ社寺調フルモ右帳簿三通ツ、各役場繼テ以テ來八月廿五日限り有無共其郡役所エ可届出郡役所ニ於テハ之ヲ取繼メ同月卅一日限り本廳ニ向テ其地可差立尤右取調心得左之通りニ候條此旨相達候事

但真宗寺院明細帳之儀ハ明治十年内務省乙第六十九號達之趣モ候所今般取調ニ付テハ各宗寺院同様取調可差出旨同省ヨリ達相成候條是又本文之通り可心得候事

(神社明細帳書式)

何府管下何國何郡何村何字何

社格何

某神社

一祭神

一由緒

一社殿間數

一境內坪數並地種

一境內神社總社

某神社

祭神

由緒

建物

一境內某遙拜所

社寺之部

十五年乙
第百三號
ヲテ追加

山給

建物

一境内招魂社

山給

建物

一境内祖靈社

山給

建物

共有人員

一境外所有地

耕地段別

地價金額

山林段別

何町字何

何町字何

地價金額

宅地段別

地價金額

一氏子戸數

一管轄廳迄ノ距離里數

一神官住職

以上

何町字何

(寺院明細帳書式)

何縣管下何國何郡何村町字何

給本山或ハ本寺或ハ某寺末

何宗何派

某寺

一本尊

社寺之部

七十七

十五年乙
第七百三
号ニテ割
除アリ

一 山裕	
一 堂宇間數	
一 境内坪數並地種	
一 境内佛堂幾字	
某堂	
本尊	
山緒	
建物	
一 境内庵室幾字	
某庵	
本尊	
山緒	
建物	

一 境外所有地	
耕地段別	何町字何
地價金額	
山林段別	何町字何
地價金額	
宅地段別	何町字何
地價金額	
檀徒人員	
一管轄應迄ノ距離里數	
以上	
明細帳取調方心得	
一明細帳ハ神社寺院境外遙拜所招魂社祖靈社ノ五種ニ分テ神社寺	

社寺之部

院ハ每郡各冊ニ編製シ表紙ニ何國何郡神社明細帳ト署記ス一郡
テ他府縣ニ跨ル者ハ何郡ノ内ト記シ又一郡ニシテ一冊内ハ町村
ニ冊以上ナルモノハ明細帳幾冊ノ内ト記スヘシ
ヲ以テ次叙シ同町村内ノ神社ハ社格寺院ハ宗派ヲ以テ區別且冊
首ニ町村名目錄ヲ付スヘシ境外遙拜所以下ハ每國各冊ニ編製シ
表紙ノ署記並目錄ハ前ニ準スヘシ
一用紙ハ美濃紙十三行界紙ヲ用ヒ一社寺毎ニ各紙ニ相認ムヘシ
但攝末社ノ名義ヲ問ハス神社境外ニ在ルモノハ総テ一社トシ
各紙ニ認ムヘシ

○甲第四百十九号 明治十二年 八月廿七日
寺院住職進退之節辭令書交付候處渾テ相廢シ自今住職進退出願ノ書
面ハ許否及指令候ニ付其撰舉方等總テ従前ノ慣例ニ任セ願書相認メ
進退ニ關スル者連署出願可致此旨布達候事

○甲第九十五号 明治十二年 十一月廿四日
府縣社以下祠官祠掌ノ等級ヲ廢シ身分取扱ハ一寺住職同様タルヘキ
旨今般太政官ヨリ達相成候條此旨布達候事

○甲第三百三号 明治十三年 八月十一日
縣社以下祠官祠掌進退之節辭令書交付候處昨十二年內務省乙第四十
八号達之趣モ有之自今辭令書不相渡出願之書面ハ直ニ許否及指令候
條從來之手續ニヨリ願書相認メ其進退ニ關スル者連署出願可致此旨
布達候事

○丙第五百十七号 明治十三年 十月十二日 郡役所
異宗本願寺派教務上取締ノ都合有之自今說教場設置及ヒ教會結社出
願ノ際該派管長之添書無之分ハ受理不相成様管長ヨリ照會越候條爲

必得此旨相達候事

○甲第百八十三号 明治十三年十二月廿三日

今般宮内省ヨリ乙第三号ヲ以別紙之通り被相達候ニ付古墳ト相見候場所所有之節ハ速ニ本廳ニ可届出此旨布達候事

乙第三号

府縣

上世以來御陵墓所在未定ノ分即今取調中ニ付云々ノ件去ル七年五月五十九号ヲ以公達ノ赴有之就テハ古墳ト相見候地ハ人民私有地ヨリ此種リニ發掘不致等ニ候ヘキ自然風雨等ノ爲メ石槨土器等露出シ又ハ開墾中不圖古墳ニ掘當リ候様ノ次第有之候ハ、口碑流傳ノ有無ニ不拘凡テ詳細ナル繪圖面ヲ製シ其地名并近傍ノ字等ヲモ取調當省ニ可申出此旨相達候事

明治十三年十一月十五日

宮内卿

○乙第十四号 明治十四年二月十八日

町村役場

今般宮内省ヨリ左之通達相成候ニ付該墳墓处在ノ向モ有之候ハ、右達ニ照準取調速ニ本廳ニ可届出此旨相達候事

乙第壹號

府縣

古來諸王ニテ奉祀ノ子孫無之方々(賜姓又ハ親王宜下ノ有無ニ拘ラズ)墳墓ハ自今惣テ皇子御墓ニ準シ取扱候條各管内ニ於テ該墳墓現存ノ向ハ地方傳説等詳細取調繪圖面相添可申出此旨相達候事

明治十四年一月十九日

宮内卿

○甲第百七十五号 明治十四年十月廿七日

各社寺ニ於テ氏子檀家中 氏子檀家ナキモハ信徒 相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸ス

社寺之部

ルモノ三名以上五名以下相撰ニ總代人ト相定メ其旨神官住職總代人連署戸長役場へ可届置而シテ今後該社寺ノ願伺届等ハ渾テ總代人連署致ス可シ且社寺収入財産ハ田畑山林ノ所得ハ勿論賽物祈禱ニ屬スヘキモノト神官住職ニ附スルモノトノ豫約毎社寺適宜相定メ平素混亂セサル様取調置可シ此旨布達候事

○甲第二十六号 明治十五年二月十五日

自今神官ハ教導職ノ兼補ヲ廢シ葬儀ニ關係セサルモノトス

但府縣社以下神官ハ當分従前之通

右内務卿ヨリ被相達候ニ付此旨布達候事

○甲第九十二号 明治十五年五月十八日

各町村鎮坐氏子之儀ハ其土地ニ就キ一定ノ區域有之ニ付各自ノ信否

ニ任セ頼リニ去就スヘキモノニ無之ハ勿論ノ所自今町村分合等ニヨリ不得已場合有之甲社ノ氏子一部落舉テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社ノ神官氏子協議之上雙方氏子総代神官連署該役場ニ届出役場ニ於テハ其都度縣廳ニ可差出此旨布達候事

○甲第三百三十七号 明治十五年十月六日

今般皇典講究所設置相成候ニ付テハ自今縣社以下神官撰舉之節ハ該所之卒業証書寫若クハ試験濟ノ証書ヲ添へ從來之手續ヲ以可願出此旨布達候事

但本縣管内ニ於テハ南秋田郡東根小屋町八幡神社内へ皇典講究假分所設置相成候事

○丙第四百六十一号 明治十五年十月六日

郡役處

社寺境内樹木伐採之儀ニ付別紙之通被相達候ニ就テハ民有之境内ト雖右達ニ準シ取扱處分ノ上ハ早々可届出此旨相達候事

番外

府縣

社寺境内樹木伐採之儀ハ明治六年第二百三十五号公布并八年第七号公達九年當省并ニ政部省第十二号達十二年當省乙第三十三号達之趣有之官有地ニ係ルモノハ當省へ伺出處分之筈ニ候處近來修繕ノ爲メ多分之伐木願出候向モ有之然ルニ社寺境内ハ修繕用材培植之地ニ無之數百年來之古木一朝地ヲ拂ヒ遂ニハ風致ヲ毀損スル向モ不少候條自今請願之節ハ不得止分ニ限リ別紙條規ニ照シ取扱候條右廢々調査之上可伺出此旨爲心得示達候事

但照限リ處分ニ係ル民有地第二種ハ勿論民有地第一種ニアル社

寺境内樹木ト雖此本文之振合ヲ以取扱フヘシ

明治十五年八月二日

内務卿

社寺境内伐木取扱概則

第一條社寺境内木ヲ五類ニ分チ風致木目通寸間ニテ第一類トシ目通り壹丈以上ヲ第二類トシ同五尺以上ヲ第三類トシ同壹尺以上ヲ第

四類トシ同壹尺未満ヲ第五類トシ

第二條第一類第二類之木ハ伐採ヲ許サス

第三條第三類ハ總木數十分ノ一拾本ニ付第四類ハ同十分ノ二付二本ニ

以內伐採ヲ許スコアルヘシ

第四條第五類ハ別ニ分通ヲ定メス生立ノ爲メ拔伐ノ外代採ヲ許サ、ルモノトス

第五條社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裏之造修用材ニ限リ第三條ニ據ルモノトス

社寺之部